



# *Art Education*

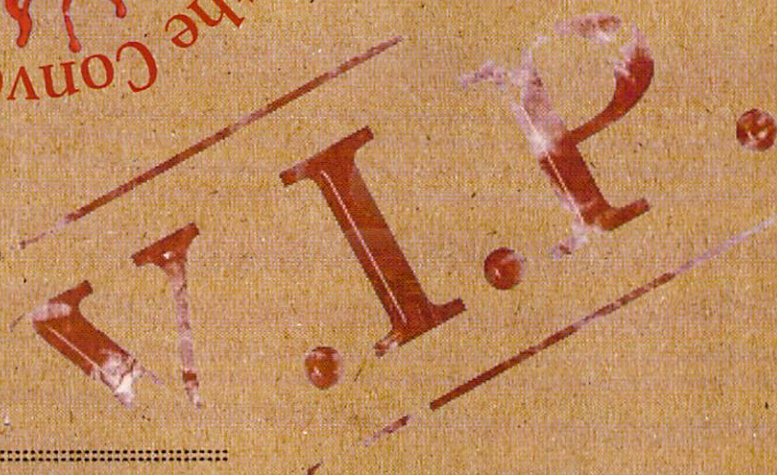


## *29th Art Educational Seminar of the Official Book*



第29回東京都中学校美術教育研究大会  
平成24年1月13日(金)10:00～

会場：町田市立町田第二中学校  
町田市立国際版画美術館



*Machida City Machida Dai-Ni Junior High School*  
*Machida City Museum of Graphic Arts*

2012

# ART EDUCATION

29th Art Educational Seminar of the Official Book



■ JANUARY 13, 2012 ■

SEVEN BLOKS OF THE CONVENTION MACHIDA  
MACHIDA CITY MACHIDA DAI-NI JUNIOR HIGH SCHOOL  
MACHIDA CITY MUSEUM OF GRAPHIC ARTS

ART EDUCATION

第 29 回  
東京都中学校美術教育研究大会研究紀要

自分らしさを創る美術教育

生涯にわたり美術を楽しむ感性と能力



ICATION

# 大会紀要目次

<b>あいさつ</b>		<b>2</b>
町田市教育委員会教育長 渋谷 友克・町田市立国際版画美術館長 村田 哲朗	.....	2
東京都中学校美術教育研究会会長 墨田区立吾嬬第二中学校長 菊田 寛	.....	3
第29回美術教育研究大会実行委員長 町田市立薬師中学校長 篠原やよい	.....	4
<b>I 大会要項・大会内容</b>		<b>5</b>
<b>II 基調提案</b>	大会研究局長 町田市立町田第一中学校 山田 智之	<b>7</b>
<b>III 記念講演</b>	帝京科学大学こども学部児童学科教授 上野 行一	<b>8</b>
<b>IV 研究授業指導案</b>		<b>9</b>
■研究授業1 「油彩転写で表す海の世界」	.....	9
町田市立鶴川第二中学校 寺田加奈子		
■研究授業2 「みんなで光を使って空間に絵を描こう」	.....	11
町田市立南大谷中学校 藤嶋 太一		
■研究授業3 「矢印のデザイン」～生活の中の用途の美～	.....	13
多摩市立諏訪中学校 渡辺美紀子		
■研究授業4 「母校を彩る在校生へのアートメッセージを造ろう」～身近な自然素材を使って～	.....	15
八王子市立柵田中学校 畠山 真理		
■研究授業5 「シリーズ〈現代の作家〉田中陽子の作品を鑑賞しよう」	.....	17
町田市立つくし野中学校 中島 隆一・町田市立小山田中学校 田邊真由美・町田市立南中学校 足立恵美子		
<b>V 誌上発表</b>		<b>19</b>
■誌上発表1 『キャリアイメージがキャリア発達に与える効果』	.....	19
町田市立町田第一中学校 山田 智之		
■誌上発表2 『VTS (Visual Thinking Strategies) をやってみよう』～教室の中での鑑賞法～	.....	21
日野市立平山中学校 河田あすか		
■誌上発表3 『東日本大震災の復興に向けて、抽象モニュメントの制作』	.....	23
日野市立日野第二中学校 豊川 邦夫		
■誌上発表4 『自然との出会い』～自らが心を込めて制作した作品《生物》と大自然との出会いを写真表現する～	.....	25
町田市立町田第二中学校 小山 一雄		
■誌上発表5 『絵手紙展・ギャラリーウォーク in 金井』	.....	27
町田市立金井中学校 福島 淳子		
■誌上発表6 『対話する人たち』～自分の思いや考えを大切にしたい人形づくり～	.....	29
町田市立鶴川中学校 伊地知俊二		
■誌上発表7 『イメージ彫刻(石彫)をつくる』	.....	31
稲城市立稲城第一中学校 富井 嘉子		
<b>VI あとがき</b>	大会副実行委員長 稲城市立稲城第二中学校長 安藤 聖子	<b>33</b>
<b>VII 大会運営組織一覧</b>		<b>34</b>
<b>VIII 研究大会開催地一覧</b>		<b>35</b>
<b>IX アクセス MAP</b>		<b>36</b>
<b>X 参考図版</b>		<b>37</b>



町田市教育委員会教育長  
渋谷 友克

第29回中学校美術教育研究大会（第7ブロック）が、町田市立町田第二中学校および町田市立国際版画美術館において盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

町田市教育委員会は、2009年に「町田市教育プラン」を策定し、基本方針の1番目に「子どもたちの生きる力と健やかな精神の育成」を掲げ、子どもたちの個性や創造性の伸長に取り組んでまいりました。

本大会のテーマ「自分らしさを創る美術教育」～生涯にわたり美術を楽しむ感性と能力～は、子どもたちが生涯にわたって身近な生活や文化と豊かに関わり、感性を磨いていく上で、非常に意義のある研究だと考えます。

さて、2012年度から、中学校における新学習指導要領が全面実施となります。美術においては、鑑賞領域において、授業時数の確保とともに地域の美術館等の積極的な活用が述べられております。国内でも数少ない版画専門の美術館である町田市立国際版画美術館を舞台に、子どもたちの鑑賞活動を充実させる試みは、先駆的な取り組みであり、地域に根ざす美術館のあり方についても示唆を与えるものと言えます。

また、町田第二中学校を会場校とする研究授業においては、写真やコンピュータといった映像メディアが効果的に活用されています。

美術教育によって培われた発想力や創造性が、子どもたちの日常生活を豊かにし、現在および将来の生活に夢と希望を与えてくれることを心から期待するものです。今後、本研究会の研究の成果が、多くの学校で積極的に活用されることにより、東京都の美術教育が一層発展していくことを願ってやみません。

結びに、本研究大会を開催するにあたりご尽力をいただきました、会長の墨田区立吾嬬第二中学校長の菊田寛先生、実行委員長の町田市立葉師中学校長の篠原やよい先生をはじめ、関係の先生方に心から感謝申し上げ、あいさつといたします。



町田市立国際版画美術館 館長  
村田 哲朗

町田市立国際版画美術館では開館以来、市内の小・中学校の先生方のご協力を得て町田市立公立小中学校作品展を開催しております。この第25回展の時に当地で第29回東京都中学校美術教育研究大会（第7ブロック大会）が開かれるのは大変意義深いことです。これを機に美術館が美術教育に果たせる役割を再確認していただければと期待しております。

美術教育も社会状況の変化に従い曲折があるのは当然ですが、今、中学校で美術の授業時間数が少なくなったと聞き、とても残念です。私の中学生時代は戦後六・三制が導入された直後で学校を取り巻く環境は劣悪でした。教室は旧制中学校の間借りで全ての教科で教材が整わない状態でしたが、美術のF先生の授業を鮮明に覚えております。先生はしばしば生徒どおしを交互にワラ半紙に鉛筆で速写させたり、時には郊外へ写生に連れ出し、描いた作品を教室や廊下に貼り出してくれました。また、雑誌などの口絵を切り取って台紙に貼り西洋や日本の絵を見せ、画家が活躍した時代、その画家の別の作品も示して繰り返し画風の特徴を理解させようとしてしました。その時知ったダ・ヴィンチのモナリザ、ラファエロのシスティーナの聖母像、チチアンンのフローラ、またレンブラントの夜警、ホッペマの並木道、もちろん、近代のマネやモネ、ルノアール、セザンヌ、ゴッホ、ゴーギャンの名前、日本の高橋由一の鮭、黒田清輝のブルターニュの少女、浅井忠のグレーの橋、岸田劉生の麗子像を忘れられません。私の美術に対する基礎知識はこの時期に得られたものです。

今は東京周辺に数多くの美術館が出来、優れた作品による展覧会が常時開かれる恵まれた時代になりました。町田市立国際版画美術館も、感受性豊かな生徒たちに美術の楽しさを知っていただける場として、より魅力的な企画を提供できるよう努めて参りたいと思います。

東京都中学校美術教育研究会会長  
墨田区立吾嬬第二中学校長  
菊田 寛



平成 23 年度、第 29 回東京都中学校美術教育研究大会第 7 ブロック町田大会が、大勢の美術教員の力を結集させ、町田市立町田第二中学校、町田市立国際版画美術館を会場として行われますことを大変嬉しく思います。

今、各地区・各学校では、来年度からの学習指導要領の完全実施を踏まえ地区研修会や校内研修で学習指導要領や内容について、それぞれに研究を深めているところです。「生きる力」を育むため、新たな変更点や重点事項などを確認し、既に授業実践を行っている教員も大勢いることと思います。美術科では、「美術文化に対する関心を高める」ことが目標に盛り込まれ、「形や色彩による表現などの技能を身につけること」が強調されています。また、「美術作品のよさや美しさを感じ取り味わう」ことも新しく表記され、表現や鑑賞活動の充実が求められています。そのような目標の達成を目指し、生徒が生涯にわたって美術を愛好する心情や豊かな情操を培うため、美術教員はさらに指導技術を高めていく必要があります。今大会のテーマである「自分らしさを創る美術教育—生涯にわたり美術を楽しむ感性と能力—」は、授業時間数が削減された現状の中でも、伝え育まなければならない美術教育の目標の原点であると感じています。

「人はパンのみに生きるにあらず」これはキリストの言葉ですが、豊かな感性を養う美術や音楽などが、幸せな生活や潤いある社会を営むためになくてはならないものであるということ、この言葉が示しています。今、日本は最大の災害を経験し、人と人が心をつなげて逆境を乗り越えていかねばならない時を迎えています。一方、この危機的な状況は、人を癒し、心を豊かにする芸術の必要性が今一度見直される機会でもあると考えます。我々美術教員は長年にわたり美術教育の重要性を訴え働きかけてきました。国際化が進む中で日本文化や美術文化の重要性が再認識され、法の整備も進められている昨今ですが、美術文化は尊重されながらも美術教育に対する理解は未だに深まっていないのが現状です。このような中で我々美術教員は、これからの日本を再興する子どもたちに身につけさせたい力は何なのかを目標に照らして考え、題材や指導方法を再考する必要があると感じています。時間削減により、一時代前のような授業展開は困難になりました。机に大きな画用紙を広げて、じっくりと対象と向き合う時間も生み出せない状況にあります。限られた時間や環境の中で、基礎・基本を習得させ、美術の楽しさや美術を愛好する心情を育てていくために、授業をどう進め、何をどう教えるべきかを見極めることが強く求められています。

東京都中学校美術教育研究会では、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、美術教育が目指す目標を確認し、毎年テーマを設けて研究に取り組んでおります。本年度の夏季研修では、「美術の学習指導要領の解釈と実際の指導」「美術館と連携した授業づくり」をメインに、これからの新しい授業づくりを研究して参りました。美術の授業を通して子どもたちに様々なメッセージを伝えたいという思いを抱いて研究に取り組んでいます。今大会に参加いただいた多くの方々と共に考え、さらなる実践を深めることが、豊かな感性を育み、将来に向けて新たな美術文化を築くことができる子どもたちを育てることにつながると確信しています。本研究大会の成果を、是非、各地区に持ち帰り、実践の一助にさせていただければ嬉しく思います。

本研究大会開催にあたり、八王子市、町田市、日野市、多摩市、稲城市の各教育委員会、各中学校長会、各教育研究会の皆様には、ご支援とご理解を賜り誠に有りました。さらに、町田市立町田第二中学校の富田直人校長先生をはじめ教職員の皆様、町田市立国際版画美術館の関係の方々には、会場をご提供いただき、ご協力を頂きましたこと、重ねてお礼を申し上げます。

第 29 回美術教育研究大会実行委員長  
町田市立薬師中学校長  
篠原やよい



この度、第 29 回東京都中学校美術教育研究大会第 7 ブロック大会が町田市を会場として開催されることとなりました。

本研究大会は、平成 24 年度の新学習指導要領完全実施を目前に、平成 21 年度からの移行期の最終段階として、ほぼ準備をととのえた時点での開催となりました。

新学習指導要領は「生きる力」を理念とし、

- 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させる
- 課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむ
- 主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努める
- 言語活動を充実させる
- 生徒の学習習慣が確立するように配慮する

を基本方針としています。美術における改訂の要点は

- 目標に「美術文化についての理解を深め」が付加された
- 〔共通事項〕が新設された
- 言語活動の充実が求められている
- 「B鑑賞」が整理された
- 道徳の時間などとの関連を考慮する

の五点に整理することができます。すなわち、美術教育を、一方では、人の生涯という大きな時間の流れの中でとらえることと、もう一方では、道徳や総合的な学習の時間、他の教科との関連という広がりの中でとらえ、生きる力育成の大切な要素とし、その力を育てることを指向しているといえます。そして、これらが、生徒一人一人の姿に確実に実現することを目指しています。

このことを踏まえて、本研究大会のテーマを「自分らしさを創る美術教育 ―生涯にわたり美術を楽しむ感性と能力―」と設定しました。

現在と将来を生きる子ども達が、美術を友とし楽しむことは、その長い生涯を豊かにし、生きる喜びを享受する重要な契機となります。そのために、中学生の今、何を学び取るかと言うことは大きな意味を有しています。翻って言えば、私達が、子ども達の学びをいかに計画し実践するかということが、子ども達の将来に大きな影響を投げかけると言うことでもあります。

本研究大会における発表や協議をとおして、美術教育のさらなる可能性が明らかになることを願います。また、美術教育が目指すべき方向を多くの方々と共に感じあいながら共有できることを願います。

最後になりましたが、本研究大会をとおして、指導講評をいただきます文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 東良雅人様をはじめ、各分科会のご助言者の先生方、また、御講演くださいます平成科学大学教授 上野行一様、ならびに多大な御支援をいただきました東京都教育委員会、八王子市、町田市、日野市、多摩市、稲城市の各教育委員会、町田市立国際版画美術館 東京都中学校長会ほか、関係教育研究団体の皆様に御礼を申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。

# I 大会要項

■会場 町田市立町田第二中学校 〒194-0013 東京都町田市原町田 4-28-1  
TEL 042-726-2771・0860・2889  
FAX 042-726-2840  
町田市立国際版画美術館 〒194-0031 東京都町田市南大谷 1 3 2 7  
TEL 042-722-1101 FAX 042-721-4399

■開催日 平成 24 年 1 月 13 日(金) 10:00 ~ 17:00  
■主催 東京都中学校美術教育研究会 会長 菊田 寛(墨田区立吾嬬第二中学校長)  
■後援 東京都教育委員会・町田市教育委員会・稲城市教育委員会  
八王子市教育委員会・多摩市教育委員会

## I 研究授業

- ①「油彩転写で表す海の世界」 町田市立鶴川第二中学校 寺田加奈子  
時間：10:45 ~ 11:35 会場：町田二中・第一美術室 4F
- ②「みんなで光を使って空間に絵を描こう」 町田市立南大谷中学校 藤嶋 太一  
時間：10:45 ~ 11:35 会場：町田二中・第二美術室 4F
- ③「矢印のデザイン」~生活の中の用途の美~ 多摩市立諏訪中学校 渡辺美紀子  
時間：10:45 ~ 11:35 会場：町田二中・被服室 3F
- ④「母校を彩る在校生へのアートメッセージを造ろう」~身近な自然素材を使って~  
八王子市立柗田中学校 畠山 真理  
時間：10:45 ~ 11:35 会場：町田二中・第一視聴覚室 2F
- ⑤「シリーズ<現代の作家>田中陽子の作品を鑑賞しよう」  
町田市立つくし野中学校 中島 隆一・町田市立小山田中学校 田邊真由美・町田市立南中学校 足立恵美子  
時間：10:45 ~ 11:35 会場：国際版画美術館常設展・特別展展示室

## II 研究協議会

- ①「油彩転写で表す海の世界」研究協議会 講師：中野区立第三中学校長 池田 浩二  
時間：11:45 ~ 12:35 会場：町田二中・第一美術室 4F
- ②「みんなで光を使って空間に絵を描こう」研究協議会 講師：世田谷区立深沢中学校長 野崎裕一郎  
時間：11:45 ~ 12:35 会場：町田二中・第二美術室 4F
- ③「矢印のデザイン」研究協議会 講師：品川区立富士見台中学校長 香村 智  
時間：11:45 ~ 12:35 会場：町田二中・被服室 3F
- ④「母校を彩る在校生へのアートメッセージを造ろう」研究協議会  
講師：新宿区立牛込第三中学校長 沼田 浩紫  
時間：11:45 ~ 12:35 会場：町田二中・第一視聴覚室 2F
- ⑤「シリーズ<現代の作家>田中陽子の作品を鑑賞しよう」研究協議会  
講師：府中市立府中第五中学校長 中村 一哉  
時間：14:15 ~ 14:55 会場：国際版画美術館

## III ワークショップ 「国際版画美術館学芸員による浮世絵摺り体験」

時間：13:00 ~ 15:00 会場：国際版画美術館

## IV 全体会

時間：15:00 ~ 15:30 会場：国際版画美術館講堂

次第 ①開会の言葉

②主催者挨拶

東京都中学校美術教育研究会会長 墨田区立吾嬬第二中学校長 菊田 寛

③実行委員長挨拶

第7ブロック大会実行委員長 町田市立薬師中学校長 篠原やよい

④来賓祝辞

⑤来賓紹介

⑥基調提案

大会研究局長

町田市立町田第一中学校 山田 智之

⑦指導講評



## 大会要項

V 記念講演 時間：15:35～16:35 会場：国際版画美術館講堂  
講演テーマ「私の中の自由な美術」 帝京科学大学こども学部児童学科 上野 行一 教授

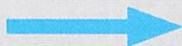
VI 閉会 時間：16:45  
次第 ①謝辞 大会副実行委員長 稲城市立稲城第二中学校長 安藤 聖子  
②次会大会実行委員長挨拶 品川区立富士見台中学校 香村 智  
③閉会の辞

### VII その他

◎第1会場(町田第二中学校)、第2会場(国際版画美術館)とも午前10時より開場いたします。お車でのご来場は、ご遠慮ください。

◎昼食は、各自がご用意下さい。昼食会場は町田第二中学校にご用意いたします。国際版画美術館内でのご飲食はご遠慮ください。周辺の公園内をご利用下さい。

## タイムスケジュール 2012年1月13日(金)

時間	第1会場 町田第二中学校	時間	第2会場 国際版画美術館
9:00		9:00	
9:30		9:30	
10:00		10:00	10:00 中学校作品展見学開始
10:30	10:45 研究授業①～④	10:30	
11:00		11:00	
11:30	11:35 研究授業①～④終了 11:45 研究協議会①～④開始	11:30	
12:00		12:00	
12:30	12:35 研究協議会①～④修了	12:30	
13:00	第2会場へ移動・昼食 	13:00	13:00 ワークショップ開始 13:20 研究授業⑤鑑賞授業開始
13:30		13:30	
14:00		14:00	14:10 研究授業⑤鑑賞授業終了 14:15 研究協議会⑤開始
14:30		14:30	14:55 研究協議会⑤修了
15:00		15:00	15:00 ワークショップ修了 15:00 全体会開始(講堂)
15:30		15:30	15:35 記念講演開始(講堂)
16:00		16:00	
16:30		16:30	16:35 記念講演修了(講堂)
17:00		17:00	17:00 中学校作品展見学終了
17:30		17:30	

# 自分らしさを創る美術教育

生涯にわたり美術を楽しむ感性と能力

大会研究局長 町田市立町田第一中学校 山田 智之

新しい中学校学習指導要領の完全実施を次年度に控え、新学習指導要領の趣旨を明確にした美術教育の方向性を示す必要がある。新しい中学校学習指導要領では、図画工作・美術の授業を通じて「自分の感覚」や「自分のイメージ」をもとに対象を主体的にとらえることの重要性が一貫して示されている。

イメージとは、Denis (1989 ドゥニ, 大久保・兵藤・寺内・富田・三上訳 1989) によれば、知覚を能動的に再構築したものと定義され、生涯にわたり、主体的に自己を確立していく上で極めて重要なものである。

一方、近年のPISA 調査の結果をみると、日本の15歳の子どもは学力が比較的高いにもかかわらず、自分の将来をイメージし、現在の自分と結びつけることが極めて苦手な現状が浮かび上がってくる。また、このような状況は、PISA 調査が行われた教科にかぎらず学習活動全般に関わっているということはいうまでもない。

このような日本の子どもの現状を解決するために、美術教育の果たす役割は大きい。なぜなら、美術教育は、表現や鑑賞を通じて自己をみつめ「自分らしさを創る」教育だからである。美術教育における一連の活動を通じて、子供たちは自分自身を見つめ、自分自身を創り、将来の自分と現在の自分を結びつけることができるようになり、高い学力はより堅固なものとなる。ことに、中学校における美術教育は、義務教育の最終段階であることから、必修教科として美術を学ぶことが最後になるため、その役割は一層重要になる。

また、日本の子どもの生涯にわたる健全な心の成長を図るために、中学校3年間の「美術」を通じて、生涯にわたり美術の諸活動を楽しむ態度と能力を育成することは極めて重要である。平成18年12月、60年ぶりに改正された教育基本法 第三条には「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生をおくることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」と生涯学習の理念が示されている。この理念は、人間の生誕からの生涯の各時期における教育と学習を関連付ける垂直的統合（時間的統合）と、成長過程での横断的な教育と学習機会を関連付ける水平的統合（空間的統合）といった生涯にわたる発達の要素を内在して、教育と学習の在り方を位置づけている。

しかしながら、中学校における美術教育を生涯学習の理念に従って考えると、水平的統合（空間的統合）において十分な取り組みがなされているとはいえない面がある。このことから、これからの美術教育を考えると、生涯学習を視野に入れ、美術館などの社会教育機関と連携を図ることが極めて重要となる。

以上のことから、本大会テーマ「自分らしさを創る美術教育－生涯にわたり美術を楽しむ感性と能力－」を設定し、新しい美術教育の方向性を提案する。

1 PISA (Programme for International Student Assessment) とは、義務教育修了段階の15歳の子どもを対象にOECDが実施した学習到達度調査のことである。その目的は、子どもの将来の生活に関係する課題への積極性や知識・技能を活用する能力を測定することにある。

### III 記念講演

## テーマ「私の中の自由な美術」

帝京科学大学こども学部児童学科 うえの こういち  
上野行一 教授



#### 講師紹介

1952年 大阪府八尾市生まれ。

大阪教育大学大学院修士課程（美術教育学専攻）修了。広告デザイナー、公立学校教諭、高知大学教育学部教授を経て現職。

ニューヨーク近代美術館教育部の講師として活動していたアメリカ・アレナスの対話型鑑賞のギャラリートークにいち早く注目。日本の教育現場へ対話を通じた美術鑑賞を紹介、その普及に取り組む。

2008年、美術による学びについて研究する「美術による学び研究会」を発足。

#### 経歴他

##### ■経歴

- 1975年 3月 京都教育大学教育学部卒業（教育学士）
- 1975年 4月 株式会社近鉄百貨店勤務。宣伝部デザイナー（1979年3月まで）
- 1979年 4月 大阪府立公立小学校教諭勤務（1995年9月まで）
- 1995年 3月 大阪教育大学大学院教育学研究科修士課程修了（教育学修士）
- 1995年 10月 高知大学教育学部助教授（2003年3月まで）
- 2003年 4月 高知大学教育学部教授
- 2010年 4月 帝京科学大学こども学部教授

##### ■主な著書

1. 『私の中の自由な美術—鑑賞教育で育む力』上野行一著  
光村図書出版、全175ページ、（単著）2011年2月
2. 『対話による鑑賞教育 Vol.2 中学校教師のための実践ガイドブック』上野行一著  
光村図書、全32ページ、（単著）2010年7月
3. 『モナリザは怒っている!?』上野行一・奥村高明著  
淡交社、DVD 60分、テキスト 50ページ、（共著）2008年12月
4. 『対話による鑑賞教育 図工・美術教師のための実践ガイドブック』上野行一著  
光村図書、全20ページ、（単著）2008年7月
5. 『観る人がいなければアートは存在しない』都築正敏編、豊田市美術館、上野行一他著  
全86ページ、（共著）2008年3月
6. 『日韓教科教育入門』刈谷三郎・上野行一他著  
図書出版弘耕（韓国）、全466ページ 執筆担当 pp.50-74、pp.153-176、（共著）2007年3月
7. 『ティチャーズ・キット mite! 1 小学校中学年用』、上野行一監修、アメリカ・アレナス他著  
淡交社、DVD、テキスト 80ページ、（監修・共著）2005年12月
8. 『ティチャーズ・キット mite! 2 小学校高学年用』、上野行一監修、アメリカ・アレナス他著  
淡交社、DVD、テキスト 80ページ、（監修・共著）2005年12月
9. 『ティチャーズ・キット mite! 3 中学校用』、上野行一監修、アメリカ・アレナス他著  
淡交社、DVD、テキスト 80ページ、（監修・共著）2005年12月
10. 『まなざしの共有』上野行一監修  
淡交社、及びCD-ROM、全181ページ（監修・共著）2001年3月
11. 『美術教育の課題と展望』花篤實監修、上野行一他著  
建帛社、全246ページ（共著）2000年5月
12. 『「みたて」の造形』上野行一編、岡田博監修  
三晃書房、全120ページ、（編集・共著）1997年9月

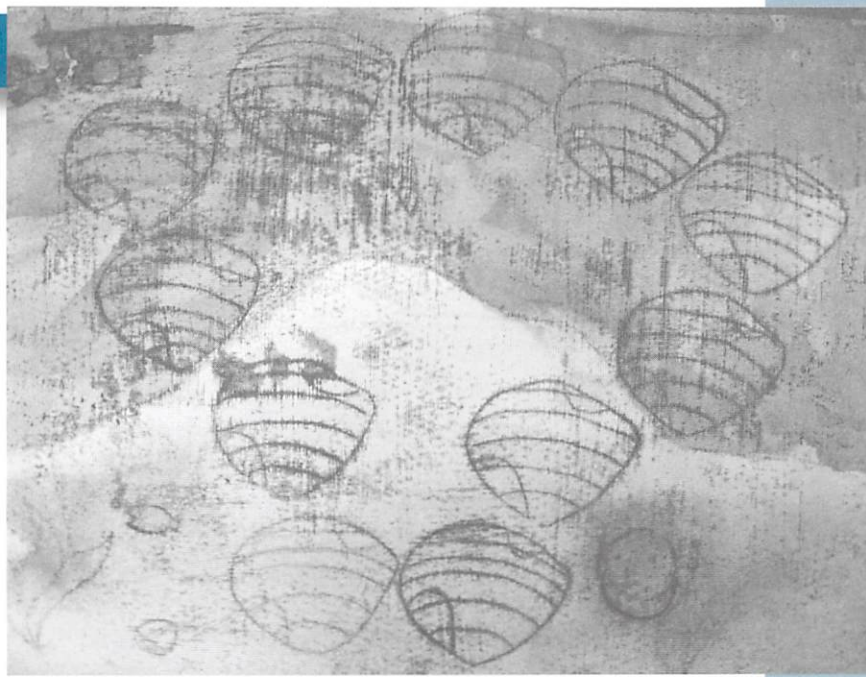
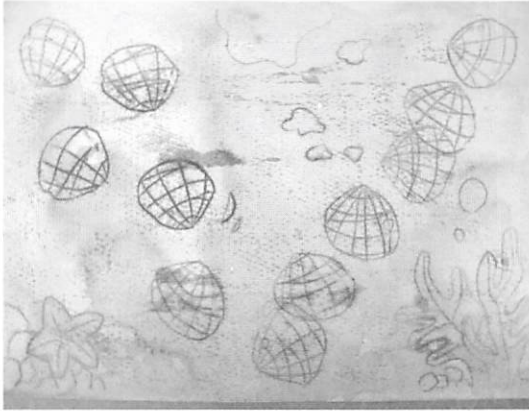
##### ■主な社会活動

1. 国立教育政策研究所各種委員（継続中・非公開）
2. 大学美術教育学会常任理事・監事（～2010年3月）
3. 美術による学び研究会代表（2008年2月～）
4. 美術館企画展「mite!展」企画（岡山、千葉、長野、島根）（2005年～）

##### ■主な研究活動

1. ルーヴル美術館の教育プログラム調査研究（2009年～）
2. スペインバルセロナ市における鑑賞教育調査研究（2006年～）バルセロナ自治大学との連携研究
3. テイトモダンの教育プログラム調査研究（2002年～）
4. 日韓教育・子ども文化比較調査研究（2001年～）

## IV 研究授業指導案①



### ●題材名

## 「油彩転写で表す海の世界」

時間 3 時間

町田市立鶴川第二中学校 寺田加奈子

A 表現 (1)(3)・B 鑑賞

### ●題材の概要

パウル・クレーが独自に開発した技法「油彩転写」の技法を学び、自分の表現に取り入れることによって、クレーの成し遂げた油彩線描と水彩との融合の面白さを味わう。

油彩転写に用いるモチーフは「貝」である。貝のデッサンと、海からイメージした形や線を組み合わせて画面構成をする。「鑑賞」から「表現」へ、「具象」から「抽象」への展開も、この課題のねらいである。もっとも個性が表れるのは、イメージから形や線へ表現す段階である。さらに、友達との作品交流を経て、自らの表現をより発展させていく楽しさを感じとってほしい。

### ●育成する資質や能力

#### 1. 美術への関心・意欲・態度

素材の良さを生かしながら、デッサンし、彩色することによって、美術への関心・意欲・態度を高める。

#### 2. 発想や構想の能力

画面への配置方法を工夫し「海」をイメージして線や色に表現することによって、豊かな発想力、構想力を育

### ●評価について

評価の観点	題材の評価規準例 (B規準)
美術への関心・意欲・態度	クレーの開発した絵画技法の良さや素晴らしさを感じ取り、自らの制作に生かしているか。
発想や構想の能力	感性や想像力を働かせ、画面への配置や彩色の工夫ができたか。
創造的な技能	「海」「貝」「波の音」などから感じ取ったことを自分なりに形や線に表現することができたか。
鑑賞の能力	クレーの表現の意図や工夫、友達の表現方法の良さや美しさを発見し、理解や見方を深めることができたか。

成する。

#### 3. 創造的な技能

貝の特徴をとらえ、デッサンすることによって、基本的な物の見方やとらえ方を身につけさせる。

#### 4. 鑑賞の能力

クレーの試みた絵画技法に関心を持たせ、その技法を試みることによって、その作品の良さや美しさを感じ取らせる。

### ●【共通事項】について

対象の特徴を形に表すとともに、対象のイメージを形や線に表すことによって、表現や鑑賞の能力を高める。特に、対象から諸感覚を働かせ、発想や想像する場面、生徒一人一人の表現の能力を育成する。

### ●基調提案との関連

美術作品の見方や、先人の試みた技法に興味を抱くことによって、生涯にわたり美術と触れあおうとする感性を伸ばす。

### ●準備物

【教師】デッサン用紙、油絵の具(黒)、筆、ペインティングオイル、画用紙、転写用紙、貝(アサリなど)

【生徒】鉛筆、水彩絵の具一式

●学習のながれ

■ 1時間目：鑑賞及びデッサン

導入（15分）

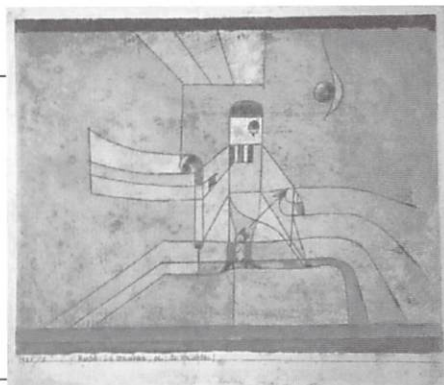
- ・クレーの作品を鑑賞し、その作風の変容や油彩転写の技法について知る。

展開（30分）

- ・貝（アサリ）を角度を変えていくつか画面に配置し、デッサンする。

まとめ（5分）

- ・友達の作品を鑑賞する。



■ 2時間目（本時）：油彩転写及び鑑賞

活動時間	活動内容	指導者のはたらきかけ	評価	留意点等
導入 15min	<ul style="list-style-type: none"> <li>●油彩転写の下準備をする。</li> <li>①新聞紙の上に画用紙を置く。</li> <li>②画用紙に油絵の具（黒）を塗る。</li> <li>③画用紙を乾燥している間、筆、パレット、油壺、新聞紙を教卓に返却する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○隣に座っている人と協力しながら、用具の準備、片付けをさせる。</li> </ul>	関心	<ul style="list-style-type: none"> <li>【Cの状況への手だて】</li> <li>・全面にむらなくのばすように、筆の動かし方をアドバイスする。</li> </ul>
展開① 10min	<ul style="list-style-type: none"> <li>●画面構成をする。</li> <li>①デッサンした作品を見直し、加筆修正する。</li> <li>②画面のあいている部分に、海からイメージする線や形を描く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○貝の特徴を表す線や模様、配置方法を工夫させる。</li> <li>○参考例を見せながら、簡略な線や模様でも、画面の雰囲気左右することを、伝える。</li> </ul>	関心 発想 技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>【指導の留意点】</li> <li>・机間巡視し、個別指導する。</li> <li>【評価の観点】</li> <li>・自分なりにイメージに基づきながら自由な線や形が描けているか。</li> </ul>
展開② 15min	<ul style="list-style-type: none"> <li>●油彩転写する。</li> <li>①黒い紙の裏側に白い紙を置き、一番上にデッサンを重ね、線描部分をなぞる。</li> <li>②後で加筆した線や形も全てなぞる。</li> <li>③転写した画用紙以外の紙をはずす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○なるべく力強く線描部分をなぞるように伝える。</li> <li>○時折、線の強弱を意識させる。</li> </ul>	発想 技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>【Cの状況への手だて】</li> <li>・一部分なぞり終わったら、転写できているか全員で確認させる。</li> </ul>
まとめ 10min	<ul style="list-style-type: none"> <li>●次時の説明をする。</li> <li>・転写画全面に水彩絵の具で薄く色をつけた完成のイメージをもつ。</li> <li>●完成した作品を鑑賞する。</li> <li>・鑑賞カードの記入をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○参考作品を見せ、転写した線が生きるように、グラデーションやにじみの効果を利用すると奥深い作品ができることを伝える。</li> <li>○クラス全員の作品を鑑賞することを伝える。</li> <li>○工夫した点を発表させ、交流させる。</li> </ul>	鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> <li>【評価の観点】</li> <li>・お互いの良さや工夫点に気づき、認め合うことができるか。</li> <li>・自分なりに努力した点や工夫した点について、振り返ることができるか。</li> </ul>

## IV 研究授業指導案②



### ●題材名

# 「みんなで光を使って空間に絵を描こう」

時間 2～3 時間

町田市立南大谷中学校 藤嶋 太一

A 表現 (2)(3)・B 鑑賞

### ●題材の概要

カメラのシャッタースピードを長く設定すると、光の軌跡で絵をかくことができる。写真家ジョンミリは光で絵を描くピカソの姿を写し、現代ではアートユニットのトーチカが「PiKAPiKa ムービー」という作品を作っている。これらの技法でグループでの制作に挑戦する。本題材は生徒にとって初めての経験であることが多いため、上手か下手かにとらわれずに取り組むことができる。そして、身体を使いながら、コミュニケーションを取ることの良さを題材設定のねらいとした。

### ●基調提案との関連

生涯にわたり美術を楽しむ感性と能力を育むにあたり、幅広い表現方法に親しむことは有効である。この題材は光でどのように描くかということがすぐに分かり、老若男女問わず楽しむことができる。将来友人たちと、あるいは家族で、共に制作するという楽しい時間を作り

出すことができる点などが基調提案と関わりが深い部分である。

### ●育成する資質や能力

- ・写真の仕組みや光の性質に対する関心、表現への意欲
- ・光という素材を使ってどのようなイメージが作れるかを豊かに発想する力
- ・よりよい作品を作るために光の特性を生かして工夫する力
- ・他のグループの作品のよさを感じ取る力

### ●【共通事項】について

光で空間に絵を描くという行為をくりかえして行う事を通してその性質を理解し、自分たちのイメージをよりよい形にしていく。

### ●準備物

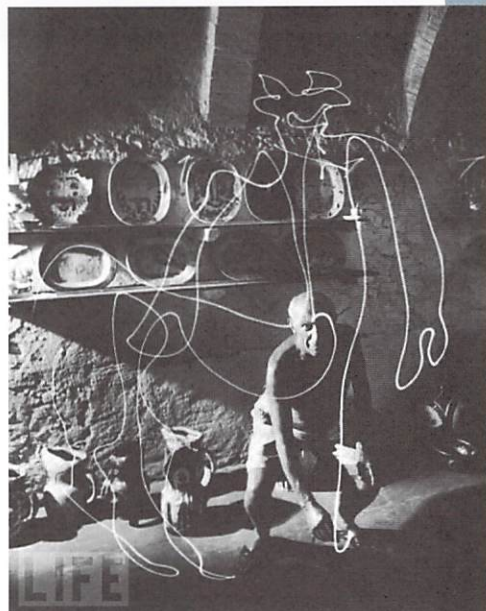
- 【教師】 デジタルカメラ、LED ライト  
 【生徒】 特になし

### ●評価について

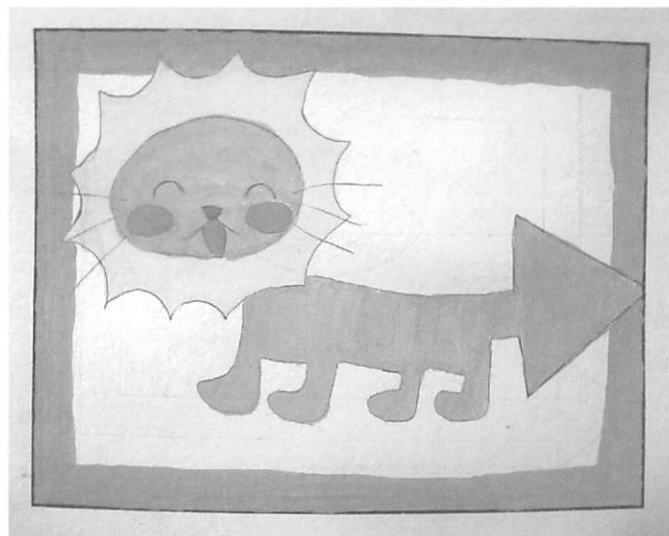
評価の観点	題材の評価規準例 (B 規準)
美術への関心・意欲・態度	光で絵を描くということに関心を持ち、グループで制作しようとする。
発想や構想の能力	光の効果と動きの関係を豊かに発想し、構想を練る。
創造的な技能	意図に応じて、光や動きの特性を生かそうとする。
鑑賞の能力	光による表現の美しさを感じ取り、他の作品への理解を深める。

●学習のながれ

導入	学習内容	指導上の留意点
1 (本時)	・光で絵を描く事を体験する。(本時)	・各グループで試行錯誤する場所と時間を確保する。
2～3	・全員で描くための構想を練る。 ・全員での制作(撮影)を行う。	・下絵と役割分担は宿題とし、学級活動などを活用し、考えてもらう。



活動時間	活動内容	指導者のはたらきかけ	評価	留意点等
導入 10min	①題材の説明を行う。 ② LED ライトを配り、全員参加で2枚の撮影をする。 ③ 2～3人のグループを作り、全員参加で1枚撮影する。 ④ 5～6人のグループを作り、全員参加で1枚撮影をする。	○1枚目は集合写真、2枚目は光で名前を描いた写真を撮る。 ○グループで1つの絵を描く経験をさせる。 ○グループを二つ組み合わせ、同様に行う。	関心 鑑賞	【指導の留意点】 ・撮影した結果をすぐにモニタに映し出すことで制作への見通しを持たせる。 ・鏡文字にしなければ読めないことに気づかせる。 【評価の観点】 ・グループをつくり、絵を描こうとする。 【Cの状況への手だて】 ・グループ内で話をさせながら取り組ませる。
展開 30min	①グループごとにデジカメを受け取り、指示にしたがって作品作りに取り組む。	○1枚目はクラスと班がわかる写真を撮影させる(データの整理に便利)。 ○2枚目以降は「喜怒哀楽」「春夏秋冬」など、テーマを提示して発想を膨らませながら繰り返し撮影させる。	発想	【指導の留意点】 ・ライトを身体に沿って動かすことでシルエットを描くことができるなど、技能の例を提示し、工夫を促す。
まとめ 10min	①各グループの作品をモニタで鑑賞しあい、ワークシートを書く。 ②次の制作について考える。	○グループの代表に前に来てもらい、作品を見ながら解説や感想を発表させる。それを聞きながらワークシートにメモをするよう指示をする。 ○次の制作は全員で1枚の共同制作とし、クラスの代表者を中心に下絵と役割分担を考えてくるよう伝える。	鑑賞	【指導の留意点】 ・時間を確保するために、早めに作業を切り上げさせる。 【評価の観点】 ・他の班の作品の良さを見つけてワークシートに記入する。 【Cの状況への手だて】 ・各班の作品を見ながら発言したコメントを参考にさせる。



## ●題材名

### 「矢印のデザイン」 ～生活の中の用途の美～

時間 2～3 時間

多摩市立諏訪中学校 渡辺美紀子

A 表現 (2)(3)・B 鑑賞

## ●題材の概要

1 辺 15 c m の正方形の画用紙に矢印のマークをデザインする。矢印の形は自由。色は 4 色まで。矢印は、生活の中でも身近なマークであり、用途に合ったデザインをするに当たって形がシンプルでバリエーションが作りやすい。また、見る人のベクトル（動き）を作り出せる面白さがある。

## ●育成する資質や能力

- ・シンプルでわかりやすいデザインが求められるため、配色や形などに工夫をする。（発想）（技能）
- ・用途や目的にあったデザインは感情の表現や、相手の立場に立った思いやりにつながる。（関心）
- ・作った作品をみんなで鑑賞し合うことで、お互いの良さを認め合う。（鑑賞）

## ●研究テーマとの関連

「自分らしさを創る美術教育～生涯にわたり美術を楽しむ感性と能力～」

優れたマークは、情報や思いを表現できるだけでなく、文字が読めない人にも情報を的確に伝えることが出来る。生活の身近にある様々な道具の意味を考え、その思いに触れることの大切さをこの単元で伝えたい。

## ●【共通事項】について

用途に合ったデザイン、特徴的な形やそれにふさわしい色彩、それらがもたらす感情を理解させることを主な目的とする。

## ●準備物

【教師】導入のためのプリント、ワークシート、横造紙、付箋紙、色見本、作品例、画用紙、定規、コンパス、色鉛筆

【生徒】筆記用具、鉛筆、ポスターカラー

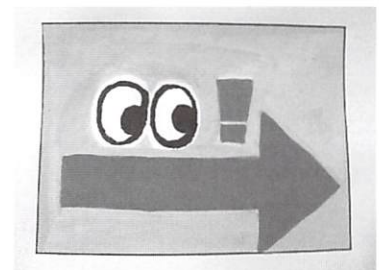
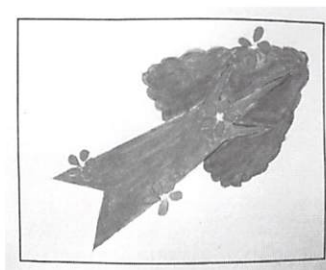
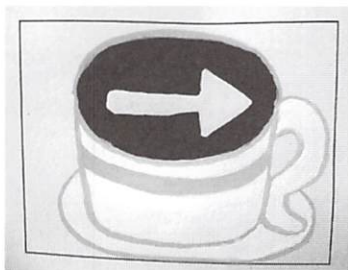
## ●評価について

評価の観点	題材の評価規準例（B規準）
美術への関心・意欲・態度	集中して取り組んでいる。 忘れ物をしない。 意欲的に取り組んでいる。
発想や構想の能力	矢印の持つ動きや形の特徴、機能を生かし、構想を練ることができる。
創造的な技能	機能や狙いにあった配色で、丁寧に作業し、作品を仕上げることができる。
鑑賞の能力	人の作品の良さを認めることができる。 自分の作品の良さを見つけ、振り返ることができる。



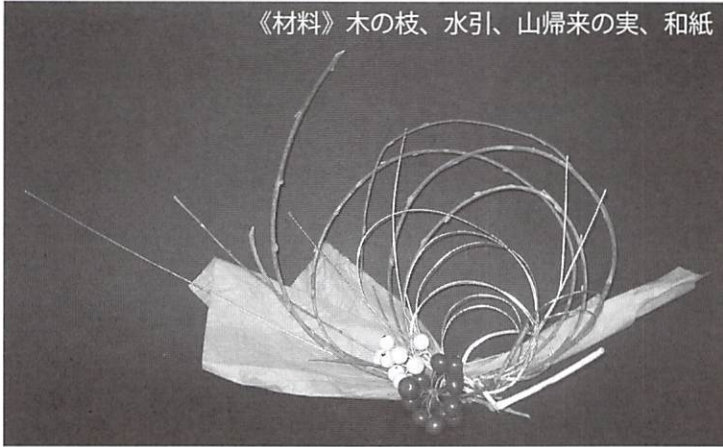
●学習のながれ

活動時間	活動内容	指導者のはたらきかけ	評価	留意点等
導入 15min	<p>①出席確認</p> <p>②矢印を使って宝探しをする。(代表)</p> <p>③矢印のデザインをすることと、そのねらいを伝える。</p>	<p>○出席をとる。</p> <p>○人を動かす力のあるマークとしての「矢印」を体感させる。</p> <p>○いくつか作品例を見せる。</p>	<p>関心 鑑賞</p>	<p>【指導の留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 矢印の持つ用途・力・感情・意味について考えさせる。</li> </ul> <p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集中して話を聞いているか。</li> <li>・ 指導者の問いかけに意欲的に参加しているか。</li> <li>・ 用途に合った表現の工夫を感じとれているか。</li> </ul>
展開 65min	<p>①プリントを使ってアイデアスケッチをする。</p> <p>②画用紙に鉛筆で下書きをした後、ポスターカラーで着色する。</p>	<p>○用途・目的にあったデザイン・配色を意識させる。</p> <p>○丁寧な作業を意識させる。</p>	<p>発想 技能</p>	<p>【指導の留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 用途を意識でき、アイデアが浮かびやすいワークシートの工夫。</li> <li>・ アイデアが出にくい生徒には声をかける。</li> </ul> <p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 用途に合った発想ができているか。</li> <li>・ 丁寧に作業に取り組んでいるか。</li> <li>・ 表現に工夫が見られるか。</li> </ul>
まとめ 20min	<p>①一斉に人の作品を見て回り、付箋紙にその作品のいいと思ったところを書き、作者のワークシートに貼らせる。</p> <p>②貼ってもらった付箋紙を見ながら、自分の自己評価をワークシートに書く。</p> <p>③見て回り、1つ選んで作品の評価をする。</p>	<p>○人のいいところを見つけ、認める。</p> <p>○自分の作品の良いところに気付く。</p> <p>○上手くいったところ次に生かしたところ等を振り返る。</p> <p>○時間があれば発表させる。</p>	<p>鑑賞 関心</p>	<p>【指導の留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ その作品がいいと思ったところを、相手にわかりやすく具体的に書くよう考えさせる。</li> </ul> <p>・ 作業が終わらなかった生徒には、描き終わってから自己評価を書いてもいいことを伝える。</p>

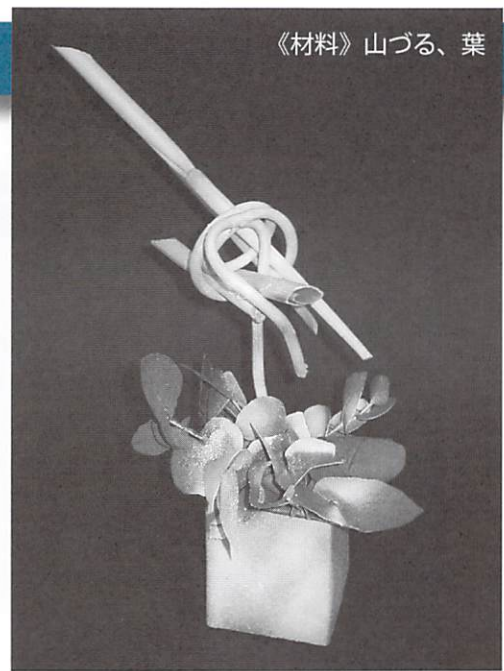


## IV 研究授業指導案④

《材料》木の枝、水引、山帰来の実、和紙



《材料》山づる、葉



### ●題材名

## 「母校を彩る在校生へのアートメッセージを造ろう」 ～身近な自然素材を使って～

時間 3～4 時間

八王子市立柵田中学校 畠山 真理

A 表現 (2)(3)・B 鑑賞

### ●題材の概要

生徒が地域で集めてきた自然素材や糸、布、紐、ガラス、金属などの身近にあるものを使って、3年間過ごした母校を彩り、在校生だけでなく新たに入学してくる新入生にも向けた作品とメッセージを造る。

### ●基調提案との関連

中学校を卒業していく生徒の中には「これから先、美術の作品を造ったり、鑑賞することが二度とない」という生徒もいる。しかし、美術の表現方法や楽しみは「絵を描く・彫刻を造る・観る」といったことに限らない。心や生活を豊かにする方法は今まで学んだ美術を様々な分野に応用することができる。特に、工芸の分野は生活空間を豊かにするものとして、様々な素材（木、草花、竹、糸、布、紐、ガラス、金属など）を使用して、衣食住に関わる道具や染色物、装飾品、生活用品、乗り物の分野で発展してきた。

本題材は、身近な素材を美術の学習で生かして「生活の中で楽しんだり、自然素材のよさや美しさを感じ取り、素材を加工することで表現する楽しさを味わうこと」や「母校や在校生に向けた作品をつくることで、作品への思いをふくらませること」を大きなねらいとする。中学校を卒業して美術の授業から離れてしまう生徒でも、美術の楽しみ方の視野を広げることで生涯、美術を愛好し

### ●評価について

ていく心情をはぐくみたい。

### ●育成する資質や能力

- ・心豊かな生活空間を創造していく意欲や態度。
- ・伝達内容を多くの人々に伝えるために形や色彩などの効果を生かして、分かりやすさや美しさを考え、表現の構想を練る能力。
- ・材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして、創造的に表現する能力。
- ・美術の楽しみ方の視野を広げることで生涯、美術を愛好していく心情。

### ●【共通事項】について

- ・使用する者の気持ちを考え、客観的な視点で自然物の性質やよさを生かす効果を生かす。
- ・表したいイメージを基に全体のイメージをとらえ、組み合わせを考える。


### ●準備物

【教師】学習プリント、鑑賞作品、はさみ（花ばさみと普通のはさみ）、ワイヤー、紐、メッセージ用色画用紙、和紙、木工用ボンド、のり、リボン、ビーズ、自然素材（木の枝、松ぼっくり、つる、山帰来、さるとりいばら）、漂白素材（晒し山しだ、晒し山づるなど）、綿

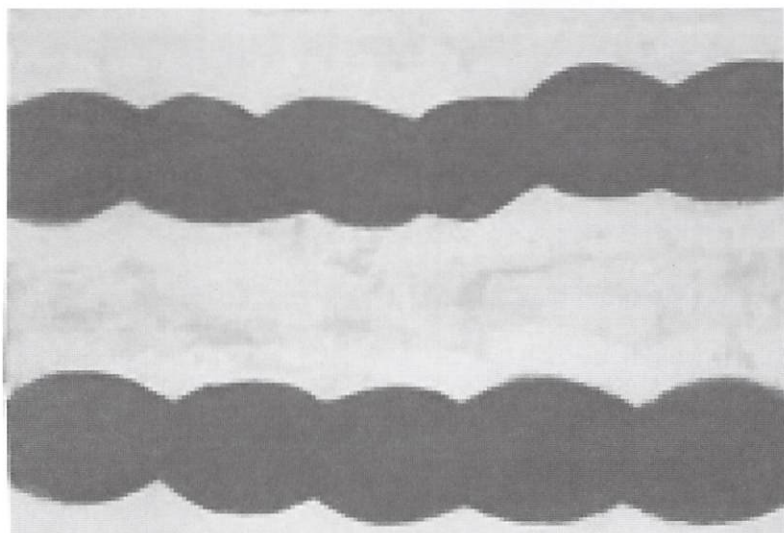
【生徒】鉛筆、消しゴム、身の回りにある自然素材、アクリル絵の具

評価の観点	題材の評価規準例（B規準）
美術への関心・意欲・態度	生活空間を豊かにする意欲をもち、新たな表現方法で制作する喜びを味わおうとしている。
発想や構想の能力	作品を鑑賞する人の気持ちや造形的な美しさを考えて、発想を練っている。
創造的な技能	自然素材の特徴を生かして、新たな表現方法を工夫して表現している。
鑑賞の能力	自然物のもつよさや造形的な美しさを味わい、生活を美しくする豊かにする美術の働きについて理解している。

●学習のながれ

活動時間	活動内容	指導者のはたらきかけ	評価	留意点等
導入 15min	①生活空間を彩る作品を鑑賞し、生活空間を豊かにする作品を制作することへの思いをふくらませる。 ②これから制作する作品が、3年間過ごした母校と在校生へのアートメッセージとなることを知る。	○作品を生活の中で生かしていきたいという思いがもてるように装飾物が置いてある風景や、自然を取り入れて空間を美しく見せている建物や庭園の写真を見せる。 ○3年間、過ごした母校と在校生への気持ちを込めて制作することを声かけする。	関心 鑑賞	【評価の観点】 ・母校や在校生への思いを膨らまし、自然物を使って、作品を表現することを楽しもうとしている。〔授業への姿勢〕
展開① 30min ～ 40min	①母校を彩り、在校生に向けたアートメッセージをどのように表すかを考える。 ②最終的に作品を校内のどの場所に展示するのかを考え、作品の形態を決める。 (置くタイプ、吊るすタイプ、掛けるタイプなど)	○3年間過ごした母校の生活空間を豊かに彩り、在校生に向けた作品のイメージを思うままに描けるよう、制作の順序や条件を記載した「エスキースカード」を使用し、制作に見通しをもたせる。	発想	【評価の観点】 ・(発) 作品を鑑賞する人の気持ちを考え、自然物のもつ特徴やよさを生かしたアイデアスケッチを練っている。〔作品・活動の様子から〕 【Cの状況への手だて】 ・生徒が表したい形が見つけれられるような発問を行う。
展開② 60min ～ 120min	①母校の空間を彩る作品を、自然素材を使って造る。  (例：ボンドで接着したり、着色をしたり、自分なりに工夫して表現する。) 	○素材は生徒が地域で見つけた自然物や授業者が用意した材料を1種類～4種類ほどで組み合わせる構成をする。 ○中心素材(主になる素材)と副素材(中心素材に添える素材)を決めることを指導する。 ○素材に長短をつけて変化をもたせたり、対比をつけることを指導する。 ○素材の特徴に応じて、線を見せたり、小さな物はマッスにして量感を出す美しく見えることを指導する。 ○枝が美しく見える切り方、ポーズの選び方、寸法の取り方などを指導する。 ○自然物は着色したり、人工物(布、ビーズ、綿など)を組み合わせ加工してもよいことを指導する。	技能	【指導上の留意点】 ・刃物を扱う場合には安全指導を行う。 ・共通した問題があれば一斉指導をし、よい作品があれば、参考にさせる。 【評価の観点】 ・(技) 作品を観る人が楽しんだり生活空間を豊かにするような作品を自分なりに新しい表現方法を工夫して、制作をしている。〔作品・活動の様子から〕 【Cの状況への手だて】 ・失敗してもテープやワイヤーなどで、修正がきくのであきらめないように声かけをする。 ・技術面でつまづいている生徒には、授業者自らがお手本を見せて支援する。
展開③ 10min ～ 15min	《メッセージの制作》 ①作品に合うようなメッセージを色画用紙や和紙などに書く。		技能	【評価の観点】 ・作品を鑑賞する人が楽しんだり、作品に合うメッセージをつくっている。〔作品・活動の様子から〕
まとめ 15min ～ 20min	①完成し作品を校内(昇降口、応接室、廊下、階段、特別教室、トイレ)に展示し、鑑賞する。	○担任、学校全体の先生方、友人、在校生などに作品の良い点やアドバイスをもらうことで、制作への意欲づけや自信を得ることにつなげる。	関心 鑑賞	【評価の観点】 ・自分の作品や作者の個性や制作意図、工夫したところを感じ取っている。(鑑賞の活動の様子から)

## IV 研究授業指導案⑤



### ●題材名

### 「シリーズ〈現代の作家〉田中陽子の作品を鑑賞しよう」

1 時間

町田市立つくし野中学校 中島 隆一・町田市立小山田中学校 田邊真由美  
町田市立南中学校 足立恵美子

B 鑑賞

### ●題材の概要

美術鑑賞は生涯教育として美術を愛好する基礎であるとともに心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる基になり、自らの作品制作においても表現方法の内容や幅を広げてくれる。

学習指導要領第2学年の目標(3)の「自然、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術の関わりに関心を持ち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める」の具体化を図る。

実際に美術館で現代の版画作家の作品に触れ、日本の伝統的な木版の手作業による作品をじっくり見つめる。

作者の思いに心を馳せ、自分自身を見つめ、自分の言葉で考える時間を持たせたい。

田中陽子さんのエネルギーで大胆で伸びやかな作品の美しさ、作風の面白さを追求することを楽しむこともねらいとする。

### ●基調提案との関連

美術館での鑑賞活動を通して、作品のよさや美しさを感じ取り、自分自身を見つめ直す機会を設ける。また、美術作品に親しむことを通して、生涯にわたり美術を楽しむ感性と能力を育てる。

### ●育成する資質や能力

・日本の伝統的な木版画の技法や表現材料について興味・関心を持たせる。

田中陽子の作品について独創性を理解し、鑑賞させる。

・お互いに意見交換しながら美術作品についての見方を広げ、鑑賞の喜びを味わうとともに、多様な価値を認め、尊重し合いながら美術作品を愛好する心を育てる。

### ●【共通事項】について

単純化された形や色彩がもたらす感情を理解し、イメージをとらえる。

### ●準備物

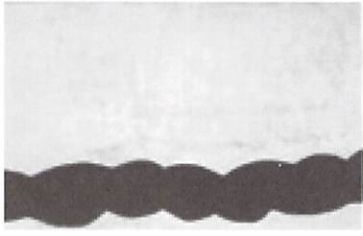
【教員】資料、ワークシート準備

【生徒】鉛筆（シャーペン不可）

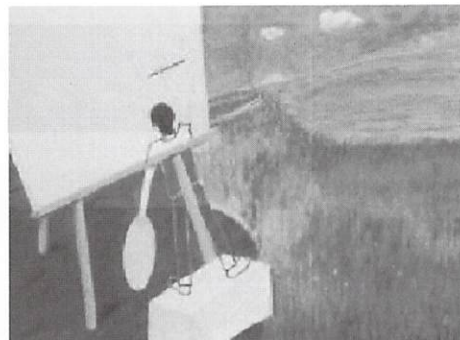
### ●評価について

評価の観点	題材の評価規準例（B規準）
美術への関心・意欲・態度	造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などに関心をもち主体的に感じとろうとしている。
鑑賞の能力	造形的なよさや美しさ、対象のイメージ、作者の心情や意図と表現の工夫を感じ取り、自分の思いや考えをもって味わっている。

●学習のながれ

活動時間	活動内容	指導者のはたらきかけ	評価	留意点等
導入 (10)min	①挨拶と説明(担当の先生方、学芸員さんの紹介)を受ける。 ②資料など受け取る。 ③ワークシート記入する。	○美術館で鑑賞する態度を説明・再確認する。 ○今回の活動について。  ○ワークシートを記入させる。	関心 鑑賞	【指導の留意点】 ・筆記用具で作品を傷つけないようにさせる。
展開① (10)min	①3グループに分かれて、教員の引率のもと、会場内の版画作品を鑑賞する。 ②自分が興味を持った作品を探す。 ③必要なことは、ワークシートに記入する。	○時間を決めて、グループごとに館内を鑑賞させる。  ○生徒の発言や表情を読み取り、今後の発問等にいかすため、適宜声をかける。  	関心 鑑賞	【指導上の留意点】 ・興味ある作品を選ばせる。 ・生徒の気づきを観察する。 ・浮世絵の説明にふれる。  【評価の観点】 ・主体的に感じとろうとしている。 ・好きな作品や気に入った作品が選べる。  【Cの状況への手だて】 ・具体的な質問で作品が選べるよう適宜声をかける。
展開② (20)min	①田中陽子の作品について自分の意見を発表し、意見交換をする。 ②気がついたことや友達の見意見をメモする。 ③新収蔵作品についても同様に自分の意見を発表し、意見交換をする。 ④気がついたことや友達の見意見をメモする。	○田中陽子の作品について、生徒に作品を選ばせ、気づいたことや感想を発言させる。 「どんな感じですか？」 「それは、どこからそう思いますか？」  ○新収蔵作品のコーナーでも同様にはたらきかける。  ○気づいたことを発言させる。  ○「今日はみんなで一緒に作品について話が聞けて有意義な時間が過ぎました。これで終わりです。」といって講堂へ誘導する。	関心 鑑賞	【指導上の留意点】 ・生徒が発言しやすい雰囲気大切に。発言を繰り返し、なげかけるようにする。 ・いろいろな生徒が発言できるようにする。いろいろな意見を聞くことで終わりにする。 ・説明しすぎないで、余韻とイメージの広がりを楽しませる。  【評価の観点】 ・感じたことを言葉で表現できる。 ・共感したり、気づいたりできる。  【Cの状況への手だて】 ・友達の発言から考えさせる。
まとめ (10)min	①ワークシートを記入し、気がついたことなどをまとめる。 ②数名の生徒に発表させる。 ③ワークシートを提出する。 ④教員より挨拶・まとめ	○生徒の気づきや発言を反復しながら、認める。  ○生徒の発言や様子をまとめる。  ○ワークシートを回収する。  ○発表から幅広い美術作品の見方を感じ取らせ、美術鑑賞の深さを学ばせる。	関心 鑑賞	【指導上の留意点】 ・生徒の活動が、有意義なものであったことを伝える。 ・鑑賞は難しいものではないと感じさせる。

## V 研究誌上発表①



### ●題材名

空想画課題 「キャリアイメージ」がキャリア発達に与える効果

時間 1 2 時間

町田市立町田第一中学校 山田 智之

A 表現 (1)(3)・B 鑑賞

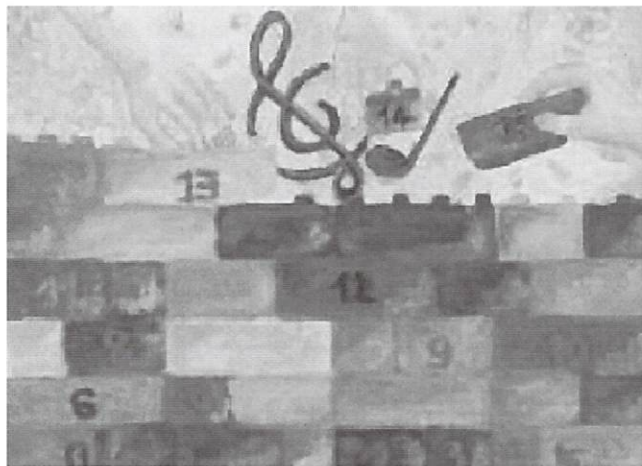
### ●基調提案との関連

本課題は、美術科の空想画課題の内容を「キャリア」とし、論議や描くことを通じて、生徒に将来の自分と現在の自分を結びつけさせ、自らの生き方を考えさせることにアプローチした課題である。基調提案において強調された生涯学習の理念は、キャリア教育の理念に通じるものであり、特に本課題は人間の生誕から生涯の各時期における教育と学習を関連付ける垂直的統合（時間的統合）にアプローチしたものである。

### ●研究の目的

文部科学省 (2004) では、日頃の教科指導において、子どもたちが学んだ知識を実感しながら理解できるようにすることをはじめ、学ぶことの意義について身をもって体得したり、社会生活や将来の職業生活における必要性や有用性等を認識したりすることが十分できないといった状況が拡大する傾向にあることを指摘し、キャリア発達の視点に立った教科指導の充実の重要性をあげている。Watts (2001) によれば、近年のキャリア教育・キャリアガイダンスの実践では、キャリアは「決める (choose)」のではなく「創造 (construct)」する方向に変化してきていると述べている。このことから、「創造 (construct)」という言葉に最も関係の深い教科である美術科の取り組みは、日本の子供たちの現状を解決することにつながるものと考えられる。

以上のような問題意識から、本研究では、中学校3年生の美術科の空想画課題「キャリアイメージ」に着目し、当該課題が中学生の進路成熟度 (松井, 2001) に与える効果について実証的に検討する。



## ●学習の流れ

導入	①キャリアという言葉から思い浮かぶ事項を言語で書き出し論議させる。
展開	①キャリアをいう言葉から思い浮かぶ形をスケッチさせる。 ②スケッチの中から、自分のイメージに近いものを選び、絵の具で制作をする。
まとめと評価	①描いた絵画の発表鑑賞会を行う。 ②絵画の校内展示。

## ●調査・方法

本研究の調査は、東京都内の市立 M 中学 3 年生 268 名を対象として、2007 年 7 月～11 月の間に 4 回の質問紙調査法による集合調査を行った。調査時期は、美術課題の作品制作 1 ヶ月前 (7 月) と作品制作直前 (9 月)、作品制作直後 (12 月)、作品制作 1 ヶ月後 (1 月) に行った。そして、4 回の調査全体を通じて 1 項目以上の無回答があった者を除いた 207 名を分析の対象とした (有効回答率 77.2%)。有効回答のあった調査対象者の属性は、男子生徒 112 名 (54.1%)、女子生徒 95 名 (45.9%) であった。

## ●分析

4 回の調査における進路成熟度の変容について、進路成熟度 (松井, 2001) の 3 つの下位尺度 (教育進路成熟, 職業進路成熟, 人生進路成熟) ごとに合計値を求めて、対応のある一元配置の分散分析を行った。その結果、教育進路成熟 ( $F(3,618)=13.509, p<.001$ ), 職業進路成熟 ( $F(3,618)=20.780, p<.001$ ), 人生的進路成熟 ( $F(3,618)=10.336, p<.001$ ) の 3 つの下位尺度全てが有意であった (Fig. 1)。さらに、Bonferroni による多重比較 ( $p<.05$ ) を行ったところ 3 つの下位尺度の全てが作品制作直前 (9 月) から作品制作直後 (12 月) の間において有意であった。また、教育的進路成熟については、作品制作 1 ヶ月前 (7 月) から作品制作直後 (12 月) の間、職業的進路成熟においては、作品制作 1 ヶ月前 (7 月) から制作 1 ヶ月後 (1 月) の間、作品制作 1 ヶ月前 (7 月) から作品制作直後 (12 月) の間、作品制作直前 (9 月) から制作 1 ヶ月後 (1 月) の間、人生的進路成熟においては、作品制作 1 ヶ月前 (7 月) から作品制作直後 (12 月) の間、作品制作直前 (9 月) から制作 1 ヶ月後 (1 月) の間において有意であった。

## ●考察

キャリアをイメージした絵画制作をおこなった期間において、中学生の進路成熟度は向上していた。このことから、「キャリアのイメージを描く」という美術科の課題は、中学生の進路成熟を高めさせる効果があると考えられる。

しかしながら、本研究が対象とした学年が中学 3 年生であり、長期間を必要とする調査であったことから、高等学校説明会をはじめとする進路情報が影響を与えていることも予測され、美術課題のみが影響を与えているとは考えにくい状況もある。この点については、調査方法などを工夫し、今後さらに研究を深める必要がある。

## 引用文献

- 松井賢治 (2001) 中学生の学校適応と進路 (キャリア) 成熟, 自己肯定感との関係 (II) 新潟大学教育人間科学部紀要, **4(1)**, 237-247.  
文部科学省 (2004). キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書『児童生徒一人一人の勤労観・職業観を育てるために』  
Watts, A.G. (2001) Career education for young people: Rationale and provision in the UK and other European countries. *International Journal for Educational and Vocational Guidance*, **1**, 209-222.

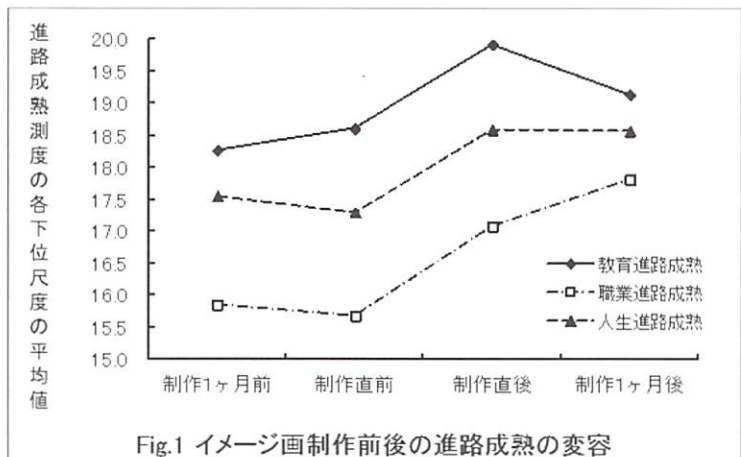
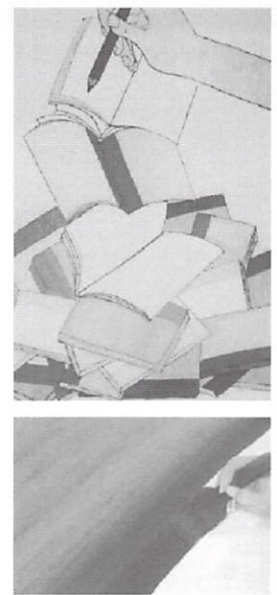


Fig.1 イメージ画制作前後の進路成熟の変容

## V 研究誌上発表②



## ●題材名

## 「VTS (Visual Thinking Strategies) をやってみよう」 ～教室の中での鑑賞法～

時間 1 時間

日野市立平山中学校 河田 あすか

B 鑑賞

## ●基調提案との関連

VTSは、認知心理学者のアビゲイル・ハウゼンが開発した学習法で、ニューヨーク近代美術館のフィリップ・ヤノウィン（教育普及担当）が開発した鑑賞指導法である。指導者は、作品を前にして「何が描かれている？」「何がおこっている？」「どうしてそう思うの？」という単純な問いに徹し、生徒たちが自ら発見し、気づくことを促す。これは、生徒たちが自由に発言し、互いの意見を受け容れ、再度、自分の考えを深めるのに有効な活動である。こうしたことの積み重ねにより、生涯を通じて美術を楽しむ態度を養うことができると考える。

## ●指導の工夫

VTSでの教員の役割は、美術史的、学術的な知識を優先せず、生徒たちからでてきた気づきや発言をひきだすことに重点をおく。

ここでは、導入の工夫として、アートカードを使用する。5～6人の1グループでゲームをしながら手元で作品に親しみ、「正解」のない見方を体験させる。例えば、『似たものつながりゲーム』では、たくさんあるカードの中から色や形、表現等から共通するものを言葉にして発表しあう。説得力のある内容であればよいというゲームである。また、『名探偵ゲーム』では、親が1枚カードを選び、他の人たちが質問をし、どれを選んだのかをあてるゲームである。親は「はい」「いいえ」のみを答え、質問者たちは「○○が描いてあるか」「○○色を使っているか」などの問いをくり返す。親の答えを手がかりに、質問者たちは、作品をよく観察しながら答えを探す。

このような活動により美術館にある作品をより身近に感じ、気軽に発言してもいいのだという実感をもつことができる。なお、ゲームは数種類あり、アートカードのなかに遊び方のマニュアルもあるので、学年やクラスにあわせた内容を選ぶとよい。

## ●準備物

【教師】アートカード（国立西洋美術館、国立近代美術館で貸し出し、または購入可）、ワークシート、書画カメラ（パソコンに映像を取り込む等の代用可）

【生徒】筆記用具

VTSをやってみよう（ワークシート）  
作品 題 名 \_\_\_\_\_（最後に伝える）

- ・何が描かれていますか？
- ・何がおこっていますか？
- ・なぜそう思いますか？
- ・他の発言を聴いてつけたそう



## ●学習の流れ

導入	<ul style="list-style-type: none"><li>・アートカード、ワークシートの配布と点検（あらかじめアートカードの解説はぬいておく）</li><li>① アートカード並べ（並べながら、知っている作品や好きな作品のカード選びなどで関心をひきだす）</li><li>② 『似たものつながり』（ゲーム）などをする（作品同士の関連性を発表しあい、見方の可能性を広げる）</li></ul>
展開	<p>作品を1点にしぼり、VTSを行う</p> <ul style="list-style-type: none"><li>① カードのまま鑑賞させる（個人の意見をワークシートに記入させながら、いろいろな意見を出す）</li><li>② 大画面に映し出し、さらに細かく見る（大画面により様々な発見をさせ、全体で意見を出し合う）</li><li>③ 作品の大きさをかえることでわかることや印象の違いについてもふれる</li></ul> <p>☆ 終始「何が描かれていますか」「どうしてそう思いますか」という質問をくり返し、出てきた答えに対しては主旨を変えずに言い方をかえて確認をする。また、どのような答えに対しても中立を保つ。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>④ 発言が出つくしたら終了（要約はしない）</li></ul>
まとめと評価	<p>あえて作品についての解説はしないで、よく話し、考えたことに対するの評価をして終わる。興味を示した内容によっては、調べるためのツール（美術全集や解説書等）や作品のある場所などを教える。</p> <p>〈評価〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・意欲的に作業に取り組むことができたか【美術に対する関心・意欲・態度】</li><li>・作品に対して興味を持つことができ、今後の活動につなげようとする態度が身についたか【美術に対する関心・意欲・態度】</li><li>・興味をもった作品をよく観察し、たくさんの発見ができたか【鑑賞】</li><li>・作品から発見できたことを共有し、楽しみが広がられたか【鑑賞】</li></ul>

## ●指導のポイント

VTSは、生徒の自発的な発言を促すことに徹するので、教師の筋書き道理にいかない場合が多い。そのため、生徒の発達段階にあった作品選定と進行の流れを想定しておく必要がある。

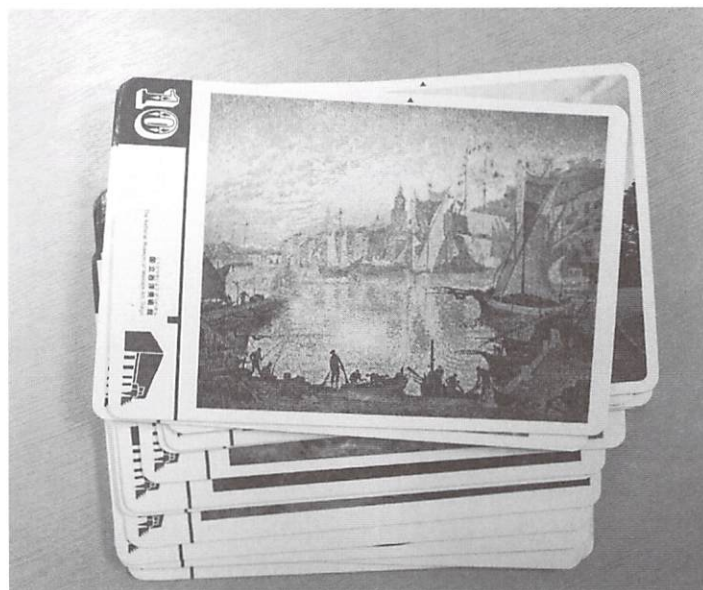
生徒たちの発言に対しては、正解に大きく頷いたり、違う答えを否定してはいけない。ここでは、考える訓練を最大の目的とするので、教師は淡々と進行役を務める。生徒たちはたくさんの意見を出しながら、他者の意見と照らし合わせ、自分の考えを深めていくことができる。

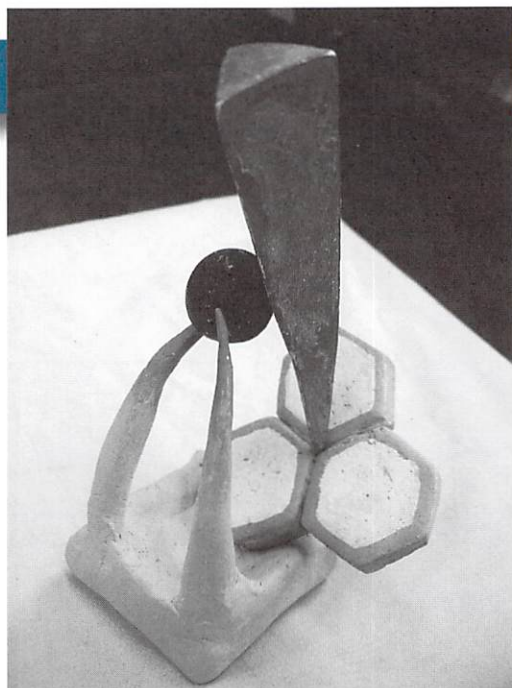
VTS終了後は、解説や答えを簡単に与えるのではなく、生徒たちが「調べてみたい」「本当の作品を見てみたい」と思えるようなまとめ方を心がける。その一方で教師自身がたくさんの資料を集め、作品の理解を深めておけば、調べ方などの提示や紹介がすぐにできる。

## ●発展と広がり

ここではアートカードゲームを含めて、1時間の授業として紹介したが、VTSそのものは1作品15分程度で行えるので、授業の一部で行うこともでき、回数を重ねることで生徒たちの思考力や言語活動を深められる。また、道徳や他の教科にも充分応用することができる。

私たち教師は、ややもすれば知識を教え込み、評価することにとらわれがちであるが、こうした方法を通して、生徒たち自身が発見する喜びを味わい、疑問をもち、自ら解決しようとする意欲を喚起できればいいのではないかと考える。





作品名『支える』

●題材名

「東日本大震災の復興に向けて、抽象モニュメントの制作」

時間 1 2 時間

日野市立日野第二中学校 豊川 邦夫

A 表現 (2)(3)・B 鑑賞

●基調提案との関連

本課題は、第2学年1学期の課題として取り組みました。3月に日本を襲った東日本大震災。その被災情報を見聞きするうちに、何か被災地の人を励ませられる、力になれる作品を作ることはできないか、というのがまず課題設定のきっかけです。制作を通じて、一人ひとりが災害のことを考え、被災地の人々のことを考え、自分に何ができるかを真剣に考えさせたいと思いました。条件として、「被災地の街の中に設置されるにふさわしい抽象的な形であること」としました。「具象表現でよし」とすると、握り合う手や支えあう人々を表すという単純な表現に偏りがちになると考え、あえて「抽象表現で」としました。勇気や希望を表す形は？色は？派手すぎる色はかえって人々に気持ちを刺激過ぎはしないか？さまざまな試行錯誤を経ながら作品は完成しました。完成後の鑑賞プリントを読むと、一人ひとりが「どう表現したら自分の想い・考えを伝えることができるのか」を必死に考えていった過程がうかがえます。「自分のイメージ」を大切にしながら、表現活動の楽しさを味わった課題でした。

●導入

ここでは、授業の導入に使うプリントの文章をそのまま紹介します。

『去る3月11日(金)に、今まで誰も体験したことのない巨大地震、そして大津波が東日本を襲い、東北地方は甚大な被害を受けました。同じ時、私たちも校舎の中でその激しい揺れを感じ、底知れない恐怖を感じたことを生々しく覚えているでしょう。未だ余震の続く中、新聞やニュースからは、激しく破壊された街の様子、大切な家族や友人を亡くした悲しみや、今まで過ごしてきた家を失い悲しみにくれる人々の記事が、連日伝えられてきます。

そんな未だ復興の見通しが立たない不安の中、懸命に生きようとするたくましい姿もたくさん報告されてきます。過酷な避難所生活でもお互い協力し合う姿、多くの人々がボランティアや義援金の寄付の協力を携わる姿など、自分が力になれることを模索している姿が多く伝えられてきます。

「美術」には、自分の想いを作品を通じて人々に伝えるという力があります。その作品を見ることによって、触れることによって、勇気づけられたり励まされることがあるのです。今回の制作は、そんな美術の持つ力を強く感じながら、抽象彫刻の制作に取り組んでみたいと思います。』

●準備物

【教師】紙粘土、粘土板、彫刻刀、瞬間接着剤、針金、ペンチ、釘、かなづち、紙やすり、ドリルなど

【生徒】アクリルカラー絵の具

## ●学習の流れ

導入	①大震災についての報道を見聞きして感じることを、伝えたいメッセージを書き出す。
展開	①自分の伝えたいメッセージにふさわしい形をアイディアスケッチにより追求する。 ②決定したスケッチを参考にして、紙粘土で成形する。 ③彫刻刀や紙やすりなどを用いて、形の修正を行なう。 ④アクリル絵の具を用いて、イメージに沿った着彩をして完成する。
まとめと評価	①完成した作品の解説、感想、友だちの作品鑑賞をする。

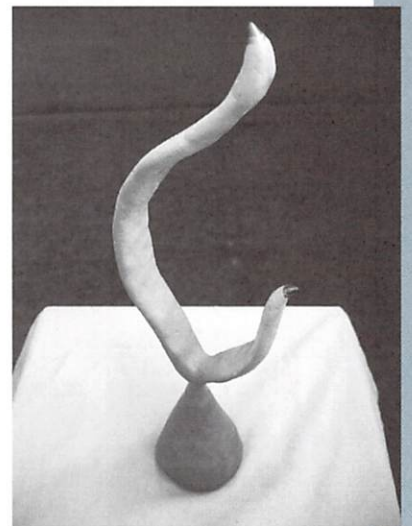
## ●完成作品と鑑賞

### ◆『支える』

黄色のとがった形は「人の手」をイメージしました。六角形のつながったブロックは「岩手県」「宮城県」「福島県」で、三角錐は「復興」というイメージで良い未来が広がるようにという想いを込めました。ブルーベリーのような球は地球で、世界中でみんなが復興を支えるという感じで作りました。なぜ角のようなものを黄色にしたかという、暖かい色を使いたかったからです。特に被害を受けた3県をモチーフにしたブロックは、震災前はとても海がきれいだったそうなので、海の水色と、とても自然が豊かだったそうなので、黄緑にしました。『支える』という題名にしたのは、この作品の1部でも欠けてしまうと崩れてしまいます。お互い支え合って生きていることを表したかったからです。

### ◆『未来は1つ』

私はまず、手で包み込む優しい感じを出したかったので、両手をイメージしたもので表現しました。それから、この題名の『未来は1つ』というのは、今どんなに苦しくても辛くても、未来はたった一つ、明るい未来が待っている、という思いを込めました。だから、下の方から上にかけて明るい色にし、最後は輝いているということで、金と銀を塗りました。それから、緑や青ではなく、なぜオレンジにしたのかという、色を明るくしていった時、黄色になり金と銀とマッチするというのが1つです。もう1つは、オレンジはどんな色よりも「幸せ」という温かい人々の気持ち、心が表せるからです。地震が起きて、家や家族、友達をなくした人など、未来は絶対明るい、と伝えたいです。



### ◆『未来への階段』

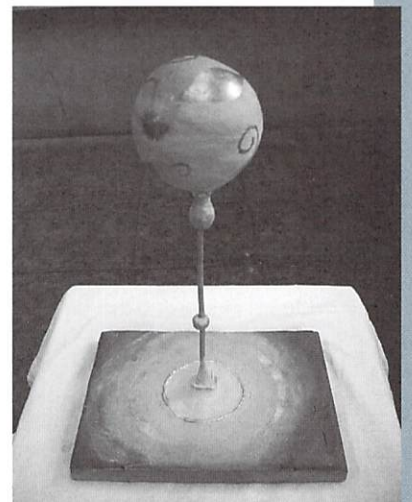
階段をイメージしたので、螺旋階段のような形にしました。

- 1 段目ー生活するのに欠かせない水。
- 2 段目ー野菜や森、木などのイメージ。
- 3 段目ー赤い四角は寄り添っている人をイメージ。
- 4 段目ー空をイメージ。
- 5 段目ー光をイメージ。
- 6・8 段目ー被災して悲しい思いをしている方々に、少しでも明るく温かい気持ちになってもらいたかったので、暖色で濃く塗りました。

7 段目ー若葉のようなさわやかな緑色を使って「スタート」を表しました。少しずつ1歩1歩復興に向けて歩みだして、今の辛い状況を乗り越えてもらいたいです。

### ◆『希望の泉』

この作品は、上にある大きな希望から小さな希望が生まれ、それがどんどんたまり、やがてすごく大きな希望に変わることを表現しました。下の水がだんだん明るくなるのは、希望が生まれるごとに被災者の暗い心が明るくなっていくことを表現しています。この作品で被災者への想いが届いてくれると嬉しいです。復興を願っています。



## V 研究誌上発表④



### ● 題材名

## 「自然との出会い」 ～自らが心を込めて制作した作品《生物》と大自然との出会いを写真表現する～

時間 6 時間

町田市立町田第二中学校 小山 一雄

A 表現 (2)(3)・B 鑑賞

### ● 基調提案との関連

新学習指導要領に示された教科の目標は、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造的な活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養うことである。表現の領域に関しては、生活や社会と豊かにかかわる態度をはぐくみ、生活を美しく豊かにする造形や美術の働きを実感させるような指導が重視され、鑑賞の指導では自分の思いを語り合ったり、自分の価値意識をもって批評し合ったりする言語活動を充実させることが求められている。作品などのよさや美しさを主体的に味わう活動が重視される。「A 表現」の指導に当たっては、生徒が自分の表現意図に合う表現形式や技法・材料などを選択し創意工夫して表現できるように配慮すべきこととして、写真・ビデオ・コンピュータ等の映像メディアの積極的な活用を図り、美術の表現の可能性を広げることが挙げられている。新学習指導要領の目標を踏まえた基調提案の趣旨は「自分らしさの創造」であり、自分らしさの表現を引き出す目的で写真表現に取り組ませたのがこの題材である。

### ● 研究の目的

写真で表現すること

自ら心を込めて制作した作品《生物》と大自然との出会いを写真で表現することをテーマとしたが、被写体となる《生物》を何にするか、どのような材料でどう作るかは生徒自身にすべて任せた。《生物》の生き生きとした生命感を表現するためには様々な工夫が必要であり、納得できる写真を撮影するために被写体である《生物》を制作する際に真剣な取り組みが求められたことは間違いない。

生徒のこの明確な表現意図は完成した写真に素直に表れていたといえる。自分で作った《生物》を被写体とすることで、様々な角度からじっくり観察し、自然の中に溶け込ませる工夫をしながら太陽の位置を考え、光と影の効果を計算してシャッターを押した。写真を撮影する生徒は、楽しさと同時にファインダーの中に見える自分が作った《生物》のもつ不思議な魅力に驚きを感じていたようである。この体験をきっかけに、深く美術という教科に関心をもつ生徒が増えた。すべての命とかけがいのない自然を大切にしようとする豊かな感性を、さらに磨くために役立つ題材であると考えている。

## ●学習の流れ

導入	<p>①夏休み中の課題として自然物（おもに植物）を材料として昆虫や哺乳類、爬虫類、鳥類等の生き物を立体作品として制作、提出させる。作品はほぼ実物大とさせた。          ※美術の授業に新たな表現手法としての写真を取り入れることで、生徒の「ものを見る目」を広げさせることを目的にしていることを説明する。</p>
展開	<p>①コンパクトデジタルカメラの扱いについて指導する。          ②撮影場所である西湖に各自が自分の作品を持参し、授業者の指示に従って「自然との出会い」をテーマに1台のカメラを3人のグループで共同使用し撮影する。          ③時間内に撮影を済ませ（40分間）、自分が最も気に入った写真を選ばせる。          ※豊かな自然に直接触れることが出来るこの機会に、生徒一人一人が主体的に自然と関わる手段として自作の作品を大自然の中に配置し、作品が作者である自分自身の目であるという設定で写真撮影を行う。「自然との出会い」の主体は生徒自身だが、自分が被写体になったり、単なる自然風景写真を撮影するのではなく、自分の分身としての立体作品と自然の風景との出会いを表現方法の工夫をして記録させる。</p>
まとめと評価	<p>①撮影場所でカメラを回収し、全写真データを処理してからカメラを返却する。          ②帰校後、プリントアウトされた写真作品の自己評価と相互評価を行う。          ③自分の写真作品をしっかり見つめて「タイトル」を付け、簡潔な解説を書かせる。          ④互いの作品を鑑賞し合い、それぞれの写真作品のよさを発表し合う。          ⑤全ての作品は文化祭で発表展示する。</p>

## ●生徒による作品解説

### ◆テーマ「少年」

解説：夏休みに虫取りに行った少年が見つけたカブトムシです。背の低い少年が高い所にいるカブトムシを見上げている様子を撮ってみました。場所は西湖です。カブトムシは木の枝でつくっています。

### ◆テーマ「おそってくってやる」

解説：カマキリは力強い昆虫なのでアップで撮りました。カマキリがカメラ（自分）を襲おうとしている感じを出しました。太陽の光を作品に当てて力強さを表しました。

### ◆テーマ「獲物を待つスパイダー」

解説：リアルになるように、ていねいに作った。作ったクモは林の中の本物のクモの巣にひっかけて写真を撮ったら、本物みたいになった。

### ◆テーマ「トンボの休息」

解説：トンボがとまりそうな木があったので、湖を見ながら疲れた羽を休ませている風景を撮りました。トンボにピントを合わせるのが大変でした。

## ●考察

この題材の特徴としては、表現と観賞の関連した学習内容であることが挙げられる。また、表現の意図や見たこと、感じたことなどを言葉や文章にする言語活動に適した題材であるともいえる。

生徒による作品解説に目を向ければ、短い文章の中に語り尽くせないほどの溢れる思いが込められていることが分かる。適当にシャッターを押した結果としての写真は一枚もないのであり、多くの苦労と工夫、意外な発見と感動が作りだした写真ばかりなのである。当然、同じ経験をした仲間同士で互いに写真作品を観賞し合うと自分の撮った作品解説には熱が入る。そうして説明する態度には真剣さが伴う。自然に、真剣な説明に耳を傾けそれぞれの作品のよさを伝え合う観賞の時間は、生徒同士のコミュニケーションを深めるよい機会にもなっていた。美術は苦手だという生徒が自信をもって自分が撮った写真の説明をしている姿からは、写真表現のもつ新たな可能性を実感した。※西湖湖畔で撮影したすべての作品は第二回『全国学校図工・美術写真公募展』に出品しました。



## V 研究誌上発表⑤



### ●題材名

## 「絵手紙展・ギャラリーウォーク in 金井」

時間 5 時間

町田市立金井中学校 福島 淳子

A 表現 (1)(3)・B 鑑賞

### ●基調提案との関連

「生涯にわたり美術を楽しむ感性と能力をはぐくむ」ために、学校と地域の連携をはかるギャラリーウォークを企画した。地域高齢者在宅サービスセンター「清風園」の利用者と世代を超えた交流をするなかで、身近なものの美しさに気づき、絵手紙に表現する。その作品を施設、学校、そして地域の商店やギャラリーに展示して、ギャラリーウォークをすることで、他者や地域の方や保護者に評価してもらおう。他者や社会、自然や環境と共に生きる、積極的な「開かれた個」を育てる授業を考えた。



### ●実践内容

- ①美術の授業で、ギャラリーウォークについて説明。実行委員を募る。
- ②清風園利用者と金井中生徒の交流会で、モチーフ探し。身近な美しいもの発見。
- ③絵手紙に使う、消しゴム印を彫る。
- ④清風園、金井中で絵手紙を描く。
- ⑤清風園、金井中、地域商店、ギャラリーに絵手紙を展示する。展示もそれぞれ工夫、協力する。
- ⑥総合の時間を利用して、班ごとにギャラリーウォークに出かける。作品の鑑賞、地域の人との交流をする。
- ⑦地域の方、保護者にもギャラリーウォークに参加してもらおう。
- ⑧葉っぱの形の紙に作品の感想を書いて、コメントツリーにする。
- ⑨地域の新聞や学校だよりで紹介する。

### ●準備物

- 【教師】画仙紙（はがき）、顔彩、自然物、消しゴム印材料、彫刻刀、朱肉、半紙  
【生徒】自然物、パレット、水入れ、筆、墨、墨汁、下敷き、ティッシュ、布など

## ●学習の流れ

導入	①地域の施設との交流しながらの取り組みであることを伝えておく。 ②校庭や地域や交流施設での様子を画像で見たり、実際に散策したりしてモチーフを探す。チーフ(身近にある美しいもの)自然物を中心に探す。
展開	①消しゴム印素材を利用して、自分の名前の印を彫る。 ②絵手紙の制作 <ul style="list-style-type: none"> <li>・墨汁または、墨をパレットに準備する。</li> <li>・絵手紙をかくときの3つのポイント「よく見てかく。」「紙からはみ出すくらい大きくかく。」「ゆっくり紙に刻むようにかく。」を説明する。</li> <li>・布やティッシュで水分を調節しながら、顔彩で着彩する。</li> <li>・モチーフを観察したり、描いたりして、浮かんだ言葉や施設の方、地域の方へのメッセージなど、丁寧に書き添える。印を押す。</li> </ul> ③完成した作品を並べて、鑑賞する。お互いの良いところを伝え合う。 ④絵手紙展・ギャラリーウォークへの参加を確認する。
まとめと評価	①絵手紙を地域の商店に展示する。それぞれの展示場所の様子を考慮、工夫する。 ②総合の時間を利用し、班ごとにギャラリーウォークに参加する。 ③感想を葉っぱの形の紙に記入して、コメントツリー(共同作品)をつくる。 ④交流施設と学校にコメントツリーを展示して、感想を共有する。

## ●ギャラリーウォーク

地域の商店、施設、本校に作品を展示する。総合の時間に、グループごとに展示を見に出かけることで、生徒相互の評価と他者からの評価を受けることができる。商店の方や保護者から「よくかけているね。」「美しいね。」「感動したよ。」と声をかけていただくのだ。総合の時間に取り組むことで、美術の教員だけでなく、普段は美術の授業にかかわらない担任の先生にも「いいね。」と認めてもらうことができる。



## ●指導のポイント

絵手紙の授業で特に気をつけていることは、「感動を絵や言葉にする。」ことである。心を込めて、素直にかいた作品は、見る人をまた感動させ、幸せにする。今回、絵手紙をかくて、展示するだけではなく、地域の商店に飾ったり、施設の方と交流したり、ギャラリーウォークをしたりする「絵手紙展・ギャラリーウォーク in 金井」とすることで、地域の人、社会に評価してもらい生徒がいきいきと活動できることを願った。絵手紙展の告知のチラシやポスターの制作、展示の工夫、コメントツリーの葉っぱの制作なども生徒が関わる。



そして、絵手紙をかくときに使う墨や顔彩、画仙紙は、日本の伝統的な材料で、そのよさや美しさを味わうことができる。

## ●発展と広がり

絵手紙展・ギャラリーウォークの取り組みを実践するにあたって、地域高齢者在宅サービスセンター「清風園」、金井商店会、保護者、本校教職員、ボランティアコーディネーター、と多くの方の理解と協力があつた。本大会テーマ「自分らしさを創る美術教育一生涯にわたり美術を楽しむ感性と能力」の達成のためには、美術室から外へ目を向け、学校、地域、外部の機関との連携、共存、協力が重要であることがわかった。コメントツリーには、絵手紙展・美術を通して出会った人たちの感想や意見が書かれている。「私も描いてみたくなりました。」「感動をありがとう。」「おかげさまで自分の住んでいるところをゆっくり歩き、楽しみました。」「自分の絵手紙が飾られて、はずかしいけど誇らしかった。」これから毎年続く、地域との活動となれば、まさに生涯学習へ第一歩である。



●題材名

「対話する人たち」  
～自分の思いや考えを大切にしたい人形づくり～

時間 1 2 時間

町田市立鶴川中学校 伊地知 俊二

A 表現 (1)(3)・B 鑑賞

●基調提案との関連

我が家には3才のトイプードル犬がいる。彼の目を見ているといつも何ごとかを訴えかけてくる。言葉のやりとりはなくても、私の中には自然と「想」が広がり、彼との対話を楽しんでいる。

「目は口ほどにものをいう」という言葉があるが、目は人の「想」を刺激し、人に気持ちを伝える力をもっている。

本題材では、観察による立体表現に重点を置くのではなく、人形の目に着目させ、顔の部位をつくりすすめていく中で、「想」を広げさせ、微妙な感情を伴った表情づくりに取り組ませた。さらに、生徒に記憶の中のイメージと結びつけさせながら、人形に性格と職業等を与え、自分なりの思いや考え方を作品に込めさせることをねらいとした。

●指導のポイント

①スモールステップと構造化された授業

本題材では、立体の表現方法をあらかじめ油粘土で学習し、段階的に目や鼻や口などの作り方の技術を習得させた。(図1)

②自分の思いや考え方に基じた「表現活動」と「鑑賞活動」

次に、目をつくることから「想」を広げ、生徒が作品をつくりながら、表情を感じ、「想」を発展させ、自分なりの思いや考え方を作品に込めることができるように指導した。まとめの段階では、できた作品をグループで組み合わせ、「対話する人形たち」から感動を伴ったドラマを創作させ、作品群に自分なりの意味や価値をつくらせるようにした。

●準備物

【教師】プラスチック芯材、紙、油粘土、ビー玉、ヘラ等

【生徒】スモッグ、絵の具等

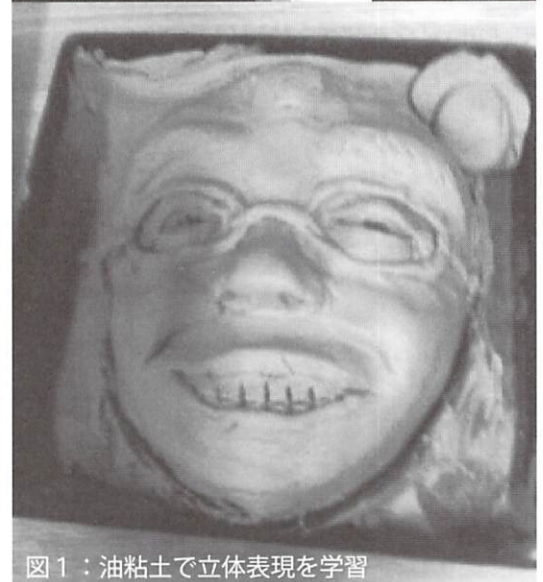
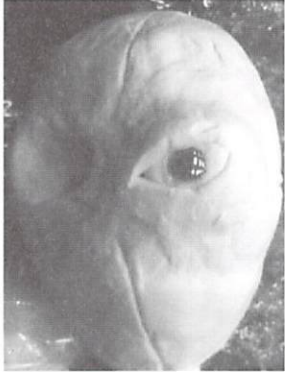



図1：油粘土で立体表現を学習



## ●学習の流れ

導入	<p>○顔作りの基本を教える段階・・・・・・・・全4時間</p> <p>①顔作りの基本を覚えよう・・・・・・・・2時間</p> <p>②「喜怒哀楽の有名人」・・・・・・・・2時間（テスト形式で行う） 【ポイント】 有名人の顔写真から「喜怒哀楽」の表情をつくる。</p>	
展開	<p>○自分の思いや考えに基づいた表現活動の段階・・・・・・・・全6時間</p> <p>③「対話する人」の頭部を制作する・・・・・・・・2時間 【ポイント】 目をつくることから発想させる。 ※ビー玉で瞳をつくる。目の動きで、気持ちが変化することを感じさせる。 ※まぶたをかぶせ、気に入った目ができるまで試行錯誤させる。</p> <p>④頭部に着色する・・・・・・・・2時間</p> <p>⑤頭に髪の毛や帽子等をかぶせ職業や性格を与える・・・・・・・・2時間 【ポイント】 職業・性格を表現しながら主題を決定させる。</p> <p>⑥主題は、題名と説明文で補足させシートに記入させる。</p> <p>◆評価の観点</p> <p>a. 集中して作業に取り組み、作品を完成できたか（興味・関心）</p> <p>b. 作品をつくりながら、主題を発見できたか（発想・構想）</p> <p>c. 微妙な感情を伴った表情づくりができたか（創造的な技能）</p>	 
まとめと評価	<p>○鑑賞活動から、自分なりの意味や価値を広げる段階・・・・・・・・全2時間</p> <p>⑦「対話する人たち」からドラマをつくり、意味や価値を広げよう・・2時間 【ポイント】 感動の物語を創作する。（言語活動の活用） ※班活動・ワークシートの活用</p> <p>◆評価の観点</p> <p>a. 「おどろき・なっとく・かんどろ」の物語を作れたか（興味関心）</p> <p>b. 物語から自分なりの意味や価値を発見できたか（鑑賞）</p>	

## ●考察

生徒は、授業の導入部で顔の作り方を練習した。それを基本として、試行錯誤を繰り返し、自分の気に入った表情をつくり出していった。

特に目の部分にこだわらせ、繰り返しやり直しをさせたことで、集中力が増し、「想」がふくらみ、人形制作に没頭する生徒が多かった。基礎・基本を活用し、考え、判断し、自分の表現したい内容を発現することは、新学習指導要領が根幹に据えている力である。生徒が、創造活動に喜びを見だし、充実感を味わえる時は、自分の思いや考えに基づいた表現活動が必ずその背後にある。自分の思いや考えを表出させやすい題材の提示や指導方法の工夫が教科目標の達成にきわめて重要になるのではないかと考えている。





⑦挑戦



水と芽

●題材名

「イメージ彫刻(石彫)をつくる」

時間 1 2 時間

稲城市立稲城第一中学校 富井 嘉子

A 表現 (1)(3)・B 鑑賞

●基調提案との関連

新しい中学校学習指導要領では図画工作・美術の授業を通じて「自分の感覚」や「自分のイメージ」をもとに対象を主体的にとらえることが重要だとされている。本題材では、自然石の形やイメージをもとに抽象彫刻作品として表現していく。今回の研究では、美術の授業から「自分らしさ」をつくることで自己をみつめ、生涯にわたって美術を楽しむ力をつくることを提案としている。本題材は「自分らしさを創る」ことに関連しており、彫刻作品を創ることで美術を楽しむ感性と能力を身につけることにつながるものではないかと考える。

●導入の工夫

(1) 過去の作品の画像を鑑賞させる

画像をプロジェクターで映し、作者のメッセージを生徒に伝えながら作品紹介をする。作品を見せ、作者のテーマやイメージを考えさせ、いくつか発表させる。

(2) 抽象彫刻について学ぶ

資料集を使い、抽象、イメージを基にした「環境のデザイン」について学び、抽象彫刻への興味をもたせる。

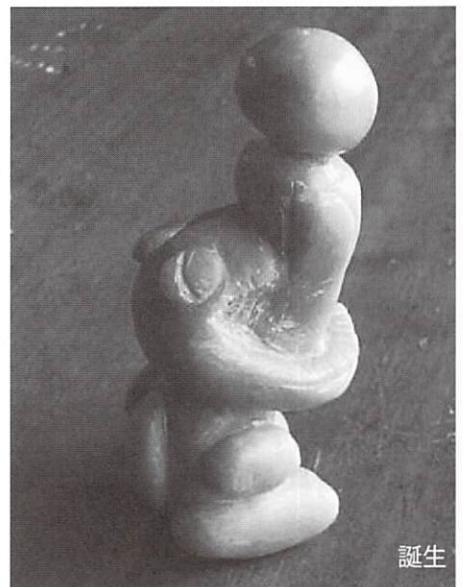
(3) 身近な野外彫刻を鑑賞する

校庭や公園の片隅にある、野外彫刻(石彫)に関心を持たせ、その彫刻が環境や人々に与える影響について考えさせる。

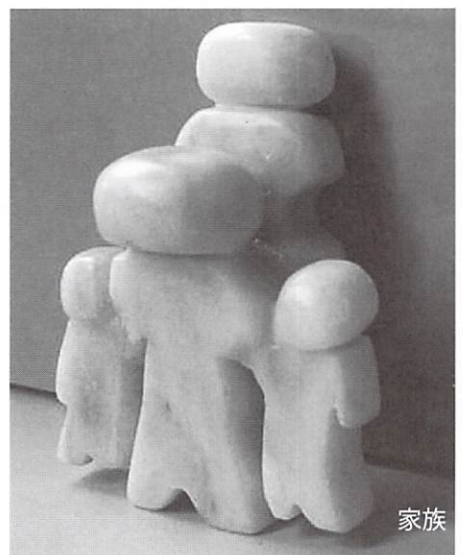
●準備物

【教師】過去の作品の画像、パソコン、プロジェクター、ワークシート  
バケツ(けずりとった石を入れる)

【生徒】石(滑石1キロ、自然に切り出したもの)、彫刻刀、小型のこぎり(工作用)  
ぞうきん、棒やすり、紙やすり、クラフトワックス、ポロ布、筆記用具  
教科書、資料集



誕生



家族

## ●学習の流れ

導入	①過去の作品の画像を見る。テーマとメッセージを説明する。 ②資料集や身近な環境にある抽象彫刻の鑑賞をする。
展開	①石との出会い（自分の石を選ぶ） ②ワークシートにテーマ・イメージ・スケッチ等をまとめる。 ③石に下書きを入れる。 ④石を削る。 ⑤石を磨く。クラフトワックスでつや出しをする。
まとめと評価	①事後カードを書く。 ②校内展示発表会で展示を行う。 ③展示発表会鑑賞カードを書く。



④努力

## ●指導のポイント

### (1) ワークシートづくり

(タイトル・メッセージ(伝えたいものはなに?)全体図・横から見た図・上から見た図

A-メッセージからのアプローチ・・・伝えたいことを決めてから形を創造していく方法。(例:熱中していること。→部活動、スポーツをテーマにしてみる。テーマ:部活 図⑦挑戦)

B-形からのアプローチ・・・自分の石の形から想像をふくらませてテーマを決める。(例:三角形からつくりやすいもの→階段にしてみる。テーマ:未来への階段 図④努力)

A、Bの両方から考えさせてみる。Aの方法は、意欲的にテーマを決めて制作したい生徒には有効である。Bの方法では、造形が苦手な生徒でも思いがけないテーマが生まれることがある。

### (2) 立体形の把握

イラストに描けても、立体的に作ることは経験不足からか、苦手な生徒が多い。全体図以外に、横から見た図・上から見た図を描いてみる、石に下書きを何度も入れる、一方向からだけではなく、常に違った方向から見ながら、立体的な把握をさせていく必要がある。このような力が身につく、立体の把握ができるようになることがこの学習で身につけさせたい力の一つであると考え。

### (3) 石を削ること、作業と片付け

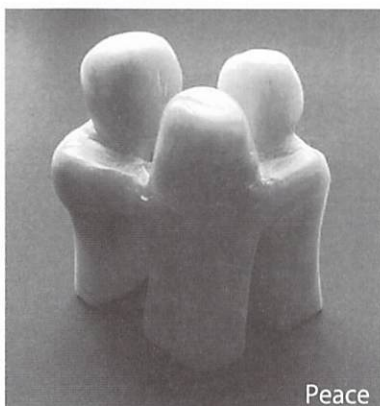
授業で使う石は削りやすいものを使っているが、生徒にとってはやはり硬いものである。根気よく時間をかけて削ることや、磨くことで作品に愛着が持てるように指導したい。また、用具の安全な扱い方法や、削りとった石の破片や粉の扱いについてもしっかり指導し、授業のマナーを守らせながら制作ができるようにしたい。



電波塔

## ●発展と広がり

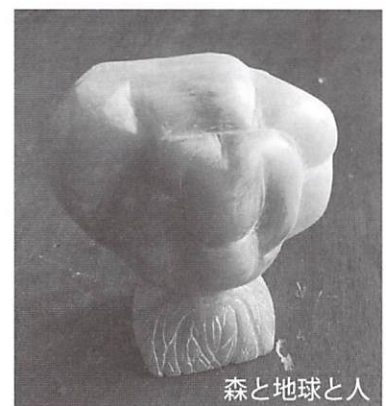
時間をかけて制作することがむずかしくなっているなかで、あえて一つのことにじっくり手間をかけることの大切さを生徒たちに味わわせたいと考え、この題材に取り組んだ。形から自分のメッセージを伝えることができること、抽象的な表現の面白さなどを感じてもらいたい。また、立体的な表現の力を身につけることで、造形感覚をさらに広げさせたい。



Peace



笑顔守り隊



森と地球と人

第29回美術教育研究大会副実行委員長  
稲城市立稲城第二中学校長  
安藤 聖子



### ■ 「授業ありき。ここからの出発を！」 ■

学習指導要領完全実施を目前に控えて、第7ブロックの中学校が、この大会を運営できたことは、大変厳しくもあり、嬉しいことでもありました。

今回のこの大会を運営するにあたって、実行委員会で考えたことは、新学習指導要領をどのような授業にして具現化し、「授業」としていけるかということでした。

日々の授業の中で中学校としての「美術」という授業の重要性を訴えることができるかということが、今後中学校で「美術」が必修教科として生き残るために必要となります。

そのためには今年の都中美第7ブロック大会が提案する内容の質の向上、特に明日からの授業に生かすことのできる、授業の本質に迫る提案をできればと考え、今日を迎えました。

今までは、選択授業があり、美術に興味関心の高い生徒、意欲のある生徒が「美術」の授業を選択し、そこで学んだ発想力、表現力、技能等を必修授業の中で生かしてゆくということが良く見られました。そういう生徒が核になり、刺激となって必修授業の質を向上させることも多く見られました。

来年度からは教育課程時間の中では決まった時間の中で指導、評価をすることが求められます。

そのために第7ブロック79校が力を合わせ、明日からの授業を「生徒が生涯にわたり美術を楽しむ感性と能力」を創る基本の一步として提案します。中学校での授業が一生涯の中で、最後に学ぶ美術の授業となる生徒も多くいます。そういう生徒に対しても「生涯にわたり」この言葉を理解させることで、これからの自分を創り上げる心の豊かな生活に気付かせることができると考え、本日の授業発表、紙上発表につなげることができました。

この間、研究についてご理解をいただきご指導をいただきました文部科学省東良雅人教科調査官をはじめ、八王子市、町田市、日野市、多摩市、稲城市各教育委員会及び各市校長会に感謝するとともに、忙しい中、今日の日の迎えることができたのは、5市の先生方が献身的な努力を重ねたお陰です。

研究や交流を深めることのできた5市の先生方がますます、よりよい授業を重ね、「美術好き。ずーっと好き」な生徒を育てられることを祈念してあとがきいたします。

## Ⅶ 大会運営組織一覧

大会会長	墨田区立吾嬬第二中学校	菊田 寛	研究局員	多摩市立諏訪中学校	渡辺美紀子
都中美術事務局長	東久留米市立大門中学校	土田 貢司	局員	町田市立南中学校	足立恵美子
大会実行委員長	町田市立薬師中学校	篠原やよい	局員	町田市立つくし野中学校	中島 隆一
副実行委員長(研究局)	町田市立町田第三中学校	永関 和雄	局員	町田市立小山田中学校	田邊真由美
副実行委員長(編集局)	八王子市立第四中学校	鎌田 正人	局員	町田市立南大谷中学校	藤嶋 太一
副実行委員長(広報局)	日野市立三沢中学校	正留 久巳	局員	町田市立鶴川第二中学校	寺田加奈子
副実行委員長(事務局)	稲城市立稲城第二中学校	安藤 聖子	実行委員会広報局長	日野市立日野第一中学校	遠藤 健一
副実行委員長(庶務局)	町田市立町田第三中学校	宮下 淳一	副局長	稲城市立稲城第二中学校	松本 達志
副実行委員長(庶務局)	町田市立小山田中学校	中山 昇	局員	稲城市立稲城第三中学校	菊池 賢江
副実行委員長(庶務局)	町田市立武蔵岡中学校	中村伊佐夫	局員	日野市立三沢中学校	真下 善明
副実行委員長(編集局)	八王子市立横川中学校	香川 雅子	局員	日野市立平山中学校	河田あすか
副実行委員長(編集局)	八王子市立横山中学校	市場陽一郎	実行委員会編集局長	八王子市立甲ノ原中学校	鈴木 泉
副実行委員長(編集局)	八王子市立恩方中学校	須藤 昭人	副局長	多摩市立多摩永山中学校	松尾 美恵
実行委員会事務局長	町田市立町田第二中学校	小山 一雄	局員	八王子市立第七中学校	佐藤 由美
副局長	八王子市立第三中学校	松本 澄代	局員	八王子市立元八王子中学校	江尻 彩香
局員	八王子市立第一中学校	新海 貴子	局員	八王子市立榎原中学校	伊藤恵美子
局員	八王子市立第六中学校	和田有基子	局員	八王子市立七国中学校	大町 未花
局員	八王子市立横山中学校	吉岡 泰光	局員	八王子市立陵南中学校	長友 亨元
局員	八王子市立城山中学校	小沼 秀夫	局員	八王子市立中山中学校	佐伯あつ子
局員	八王子市立川口中学校	鶴崎 靖二	局員	多摩市立和田中学校	古澤有紀子
局員	八王子市立由木中学校	旭岡 史子	局員	日野市立三沢中学校	中島 章太
局員	八王子市立松が谷中学校	櫻井妃呂子	局員	日野市立大坂上中学校	齋木 昭夫
局員	八王子市立宮上中学校	田中 慎二	局員	稲城市立稲城第五中学校	嶋口 光明
局員	日野市立日野第二中学校	豊川 邦夫	実行委員会庶務局長	町田市立鶴川中学校	伊地知俊二
局員	稲城市立稲城第一中学校	富井 嘉子	副局長	八王子市立第五中学校	長澤 洋介
局員	町田市立山崎中学校	日下部真弓	局員	八王子市立ひよどり山中学校	佐野 正幸
実行委員会研究局長	町田市立町田第一中学校	山田 智之	局員	八王子市立石川中学校	矢島そのみ
副局長	町田市立金井中学校	福島 淳子	局員	八王子市立四谷中学校	佐藤 福子
副局長	八王子市立鎌水中学校	工藤 和子	局員	八王子市立横川中学校	秋山 節雄
局員	八王子市立第二中学校	佐々木英明	局員	八王子市立浅川中学校	三留 亮子
局員	八王子市立第四中学校	上原 えり	局員	八王子市立南大沢中学校	常松 瑞穂
局員	八王子市立長房中学校	泉 朋子	局員	八王子市立松木中学校	梅村 晶江
局員	八王子市立由井中学校	中屋 珠美	局員	多摩市立東愛宕中学校	大塚 雄史
局員	八王子市立打越中学校	吉本 敏啓	局員	多摩市立落合中学校	山崎 剛典
局員	八王子市立別所中学校	田中 みお	局員	多摩市立青陵中学校	秋廣 玲子
局員	八王子市立上柚木中学校	大澤 由紀	局員	日野市立七生中学校	佐藤 未来
局員	多摩市立多摩中学校	車田 幸道	局員	稲城市立稲城第六中学校	荻野 寿子
局員	日野市立日野第四中学校	三浦 一浩	局員	町田市立成瀬台中学校	久保田幸子
局員	日野市立日野第四中学校	粕谷恵理子	局員	町田市立南成瀬中学校	林 公裕
局員	稲城市立稲城第四中学校	瀬戸 孝行	局員	町田市立薬師中学校	白井 香里
局員	町田市立町田第一中学校	芝 宝代	局員	町田市立真光寺中学校	沼野 修治
局員	町田市立町田第三中学校	奥山たみ恵	局員	町田市立忠生中学校	多氣 容子
局員	町田市立つくし野中学校	佐藤 典子	局員	町田市立忠生中学校	長島 碧
局員	町田市立鶴川第二中学校	友近 愛	局員	町田市立木曾中学校	森 秀二
局員	八王子市立柵田中学校	畠山 真理	局員	町田市立堺中学校	本田 香織

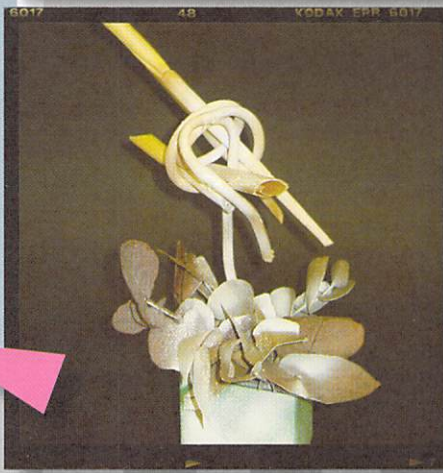
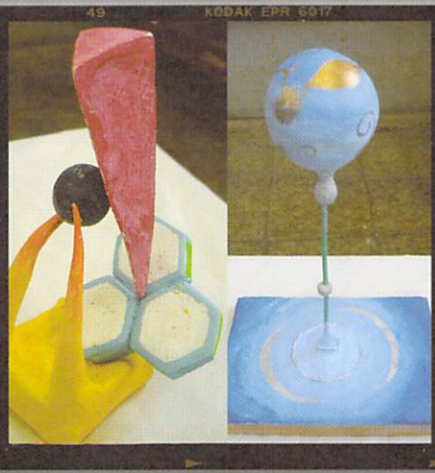
編集レイアウト・デザイン 新島村立新島中学校 吉田 直幸

## VII 都中美研究大会開催地一覧

開催日	開催地(会場)	大会主題(大会副主題)
第1回 S58.11.18	品川区 品川総合教育会館	「感動を持って創り出す力を高める美術教育」
第2回 S59.11.20	府中市 府中市立教育センター	「未来を拓く人づくりをめざす美術教育」
第3回 S60.11.27～28	豊島区関プロ大会と合同大会 豊島区立千川中学校	「素材と創造者たち」
第4回 S61.10.9	中野区 中野区立第七中学校	「創作意欲をおこさせ表現力をたかめる授業の進め方」
第5回 S62.10.9	立川市 立川市立第九中学校	「崩壊か、低迷か、創造か」
第6回 S63.11.25	新宿区(都図研・都中美合同大会) 新宿区立西戸山中学校・同早稲田小学校	「想像の大地をめざして」 —伸びる・ふれあう・美術の根—
第7回 H元.10.20	北区 北区立神谷中学校	「やる気見つけた!」 —みずからの生き方につながる造形活動をめざして—
第8回 H2.11.22	新宿区 神楽坂エミール	「感動が人を創る」 —自らをたがやす生徒の育成をめざす美術教育—
第9回 H3.10.22	第5ブロック 荒川大会 荒川区立南千住第二中学校	「創るよるこび、生きるよるこび」 —なぜ美術教育か—
第10回 H4.10.20	第6ブロック 江戸川大会 江戸川区立小松川第二中学校	「感性が輝くとき」—今、創造の意味を考える—
第11回 H5.11.18	第7ブロック 八王子大会 八王子市立浅川中学校	「主体的表現と個性の輝きをもとめて」 —心の教育と21世紀へ向けての美術教育—
第12回 H6.10.4	本部大会 東京国立近代美術館・神楽坂エミール	「新たな美術教育の展開を求めて」 —美術館との連携と鑑賞教育の可能性—
第13回 H7.11.14	第8・9・10ブロック 北多摩大会 武蔵野市立第六中学校	「きらめく感性 あふれる創造」 —子どもが伸びる授業づくりをめざして—
第14回 H8.10.4	第1ブロック 大田区全造連・関プロ大会と合同大会 大田区民センター	「美術と環境—心の軌跡」
第15回 H10.1.22	第2ブロック 世田谷大会 世田谷美術館	「根幹と広がり」 —美術を好きになるには—立体表現を通して—
第16回 H11.1.28	第3ブロック 練馬大会 練馬区立豊玉第二中学校	「現在、美術は増殖する」—学校から地域へ生涯へ—
第17回 H11.11.19	第11ブロック 西多摩大会 西多摩郡日の出町立大久野中学校	「地域から発想」—自然・伝統・生活を見つめて—
第18回 H12.11.16	第4ブロック 板橋大会 板橋区立加賀中学校	「美術の時間は発見ワールド」 —21世紀の美術は感性を呼び覚ます—
第19回 H13.11.22	第5ブロック 足立大会 足立区立第十四中学校・西新井ギャラクティ	「豊かな感性が21世紀を創る」 —人権・共生・環境教育の原点としての美術—
第20回 H14.11.21	第6ブロック 墨田大会 墨田区立墨田中学校	「美術・生命の泉」—わき出す想像、広がる創造—
第21回 H15.11.28	第7ブロック 八王子全造連・関プロ大会と合同大会 八王子長房中学校	「創ることは生きること」 —人間・さらなる成長をめざして—
第22回 H16.11.5	第1ブロック 品川大会 品川区立富士見台中学校	「観る 鑑る 未来る」—転換期における美術教育—
第23回 H17.11.18	第2ブロック 新宿大会 新宿区立落合第二中学校	「創造は生徒を変える」
第24回 H18.11.17	第3ブロック 中野大会 中野区立中野富士見中学校	「みんなの美術」—感動と創造は未来を拓く—
第25回 H19.11.8～9	第4ブロック 文京大会 47回関東甲信越静地区造形教育研究大会 東京大会	人間形成としての造形美術教育 —新しい教育課程にどう対応するか—
第26回 H21.1.16	第8・9・10ブロック 北多摩大会(府中大会) 府中市立浅間中学校・府中市美術館	「人間力をはぐくむ美術教育—いま、求められる創造性」 —豊かな「かかわり」を生み出す美術の授業—
第27回 H21.11.13	第6ブロック 葛飾大会 葛飾区立上平井中学校	「メッセージ～色・形・ことばからの発信～」
第28回 H22.11.9	第5ブロック 荒川大会 荒川区立第三中学校	「イメージを形に」 ～鉛筆デッサンから自己表現まで～
第29回 H24.1.13	第7ブロック 町田大会 町田市立第二中学校・町田市立国際版画美術館	「自分らしさを創る美術教育」 ～生涯にわたり美術を楽しむ感性と能力～



# X 参考図版





2012



第29回 東京都中学校美術教育研究会  
第7ブロック 町田大会  
平成24年1月13日(金)  
町田市立町田第二中学校・町田市立国際版画美術館

